

M2N-Plus SLI
Vista Edition



Motherboard

J2988

初版第 1 刷

2007年 2月

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容に変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ	iii
ご注意	vii
安全上のご注意	viii
このマニュアルについて	ix
M2N-Plus SLI Vista Edition仕様一覧	xi

Chapter 1: 製品の概要

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容	1-1
1.3	特長	1-2
1.3.1	製品の特長	1-2
1.3.2	ASUS AI Lifestyle	1-4
1.3.3	ASUSの独自機能	1-5
1.3.4	ASUSの各機能とサポートしている OS	1-6

Chapter 2: ハードウェア

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.2.1	設置方向	2-2
2.2.2	ネジ穴	2-2
2.2.3	マザーボードのレイアウト	2-3
2.2.4	レイアウトの内容	2-4
2.3	CPU	2-6
2.3.1	CPUを取り付ける	2-6
2.3.2	CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	2-8
2.4	システムメモリ	2-11
2.4.1	概要	2-11
2.4.2	メモリ構成	2-11
2.4.3	メモリを取り付ける	2-13
2.4.4	メモリを取り外す	2-13
2.5	拡張スロット	2-17
2.5.1	拡張カードを取り付ける	2-17
2.5.2	拡張カードを設定する	2-17
2.5.3	割り込み割り当て	2-18
2.5.4	PCI スロット	2-18
2.5.5	PCI Express x1 スロット	2-18
2.5.6	PCI Express x16 スロット	2-19

もくじ

2.6	ジャンパ	2-20
2.7	コネクタ	2-22
2.7.1	リアパネルコネクタ	2-22
2.7.2	内部コネクタ	2-24

Chapter 3: 電源をオンにする

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2
3.2.1	OS シャットダウン機能を使用する	3-2
3.2.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する	3-2

Chapter 4: BIOS セットアップ

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.1.1	ASUS Update	4-1
4.1.2	ブートフロッピーディスクを作成する	4-4
4.1.3	ASUS EZ Flash 2	4-5
4.1.4	BIOS を更新する	4-6
4.1.5	オリジナルの BIOS ファイルを保存する	4-8
4.1.6	ASUS CrashFree BIOS 3	4-9
4.2	BIOS 設定プログラム	4-10
4.2.1	BIOSメニュー画面	4-11
4.2.2	メニューバー	4-11
4.2.3	ナビゲーションキー	4-12
4.2.4	メニュー	4-12
4.2.5	サブメニュー	4-12
4.2.6	構成フィールド	4-12
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-13
4.2.8	ヘルプ	4-13
4.3	メインメニュー	4-14
4.3.1	System Time [xx:xx:xx]	4-14
4.3.2	System Date [Day xx/xx/xxxx]	4-14
4.3.3	Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]	4-14
4.3.4	Primary/Secondary IDE Master/Slave	4-15
4.3.5	SATA1~4	4-17
4.3.6	HDD SMART Monitoring [Disabled]	4-18
4.3.7	Installed Memory [xxx MB]	4-18
4.3.8	Usable Memory [XXX MB]	4-18

もくじ

4.4	拡張メニュー	4-19
4.4.1	JumperFree Configuration	4-19
4.4.2	CPU 設定.....	4-21
4.4.3	PCInP.....	4-24
4.4.4	オンボードデバイス設定構成.....	4-24
4.4.5	SLI Configuration.....	4-28
4.5	電源メニュー	4-29
4.5.1	ACPI Suspend Type [S1&S3].....	4-29
4.5.2	ACPI APIC Support [Enabled].....	4-29
4.5.3	APM の設定	4-30
4.5.4	ハードウェアモニタ	4-32
4.6	ブートメニュー	4-34
4.6.1	ブートデバイスの優先順位	4-34
4.6.2	Removable Drives.....	4-35
4.6.3	Hard Disk Drives	4-35
4.6.4	CDROM Drives	4-35
4.6.5	ブート設定	4-36
4.6.6	セキュリティ	4-37
4.7	ツールメニュー	4-39
4.7.1	ASUS EZ Flash 2.....	4-39
4.8	終了メニュー	4-40

Chapter 5: ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポートCD 情報	5-1
5.2.1	サポートCDを実行する.....	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー.....	5-3
5.2.4	Make Disk menu	5-5
5.2.5	マニュアルメニュー	5-6
5.2.6	コンタクトインフォメーション	5-6
5.2.7	その他の情報	5-7
5.3	ソフトウェア情報	5-9
5.3.1	ASUS MyLogo2™	5-9
5.3.2	Cool 'n' Quiet!™ Technology.....	5-11
5.3.3	C-Media CM6501 オーディオユーティリティ	5-13

もくじ

5.3.4	ASUS PC Probe II	5-16
5.3.5	ASUS AI Gear	5-22
5.3.6	ASUS AI Nap.....	5-23
5.3.7	ASUS AI Remote.....	5-24
5.4	Windows® Vista	5-32
5.4.1	ASAP (ASUS Accelerated Propeller).....	5-32
5.5	RAID	5-33
5.5.1	ハードディスクを取り付ける.....	5-34
5.5.2	NVIDIA® RAID	5-35
5.6	RAIDドライバディスクを作成する.....	5-42
 Chapter 6: NVIDIA® SLI™技術サポート		
6.1	概要	6-1
6.2	デュアルビデオカードをセットアップする.....	6-2
6.2.1	SLI -Ready ビデオカードを取り付ける	6-2
6.2.2	デバイスドライバをインストールする	6-5
6.2.3	マルチGPU 機能 (Windows®環境)	6-5

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプターを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。



左のマークは、本製品が電気製品または電子装置であり、地域のゴミと一緒に捨てられないことを示すマークです。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従ってください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: 電源をオンにする**
電源をオンにする手順と電源をオフにする手順について。
- **Chapter 4: BIOSのセットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 5: ソフトウェア**
マザーボードパッケージに付属のサポートCD の内容。
- **Chapter 6: NVIDIA® SLI™ Technology サポート**
SLI 対応 PCI Express ビデオカードの詳細。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト** (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

<> で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

1度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

Command

表記されている通りのコマンドを入力してください。
続けて[]で指示している文字列または値を入力してください。

例: DOS プロンプトで、コマンドラインを入力

```
afudos /i [filename]
```



```
afudos /icommando.rom
```

M2N-Plus SLI Vista Edition

仕様一覧

CPU	ソケットAM2 (AMD Athlon™ 64 FX / AMD Athlon™ 64 X2 / AMD Athlon 64™ / AMD Sempron™ プロセッサ対応) AMD Cool 'n' Quiet™ Technology 対応 AMD64 アーキテクチャで、32bit と64bit を同時処理 AMD Live!™ Ready
チップセット	NVIDIA® nForce® 500 SLI™ MCP
システムバス	2000 / 1600 MT/s
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"> - 240ピンメモリスロット×4 : unbuffered ECC / non-ECC DDR2 800/667/533 MHz メモリに対応 - システムメモリ 最大8 GB
拡張スロット	PCI Express™ x16 スロット×2 : x8、x8 スピードでNVIDIA® SLI™をサポート PCI Express™ x1 スロット×2 PCI 2.2 スロット×2
SLI (Scalable Link Interface)™	2つの同一の NVIDIA® SLI™-Ready ビデオカードをそれぞれ x8 モードでサポート ASUS 2 スロットサーマルデザイン
記憶装置	NVIDIA® nForce® 500 SLI™ MCP のサポート内容: <ul style="list-style-type: none"> - IDE コネクタ×2 : Ultra DMA133/100/66/33 デバイス 4 台に対応 - Serial ATA 3.0 Gb/s コネクタ×4 : Serial ATA デバイス 4 台に対応 - RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、RAID 5、JBOD 設定が可能 (Serial ATA ドライブのスパニング)
LAN	NVIDIA® nForce® 500 SLI™ MCP ビルトイン Gigabit MAC (外部 Attansic PHY 搭載) <ul style="list-style-type: none"> - TCP/IP Acceleration 対応
オーディオ	C-Media Superior Quality Audio 7.1 チャンネル CODEC (Vista 対応) <ul style="list-style-type: none"> - S/P DIF 出力インターフェース対応
IEEE 1394a	VIA 1394 コントローラ:1394a ポート 2 基をサポート
USB 2.0	USB 2.0/1.1 ポート×8(ミッドボードに 4 基、リアパネルに 4 基)

(次項へ)

M2N-Plus SLI Vista Edition

仕様一覧

ASUS AI Lifestyle	<p>ASUS AI Lifestyle Vista Edition 各機能:</p> <ul style="list-style-type: none"> - AI Remote - ASAP (ASUS Accelerated Propeller) - TPM Support (モジュールは別売りです) - AP Trigger <p>*ASUS AI Remote, AP Trigger, TPMは Windows® Vista / XP 両方に対応</p> <p>ASUS Quiet サーマルソリューション:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ASUS AI Gear - ASUS AI Nap
ASUS だけの オーバークロック機能	<p>AI Overclocking (知的CPU 周波数チューナー) Stepless Frequency Selection (SFS): FSB が調節可能 (1 MHz インCREMENTで 200 MHz ~400 MHz) ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall) FSB/DDR2の動作倍率を調節可能: PCI/PCIe 固定周波数</p>
特殊機能	<p>ASUS EZ DIY:</p> <ul style="list-style-type: none"> - ASUS Q-Connector - ASUS CrashFree BIOS 3 - ASUS EZ Flash 2 <p>ASUS Q-Fan 2 ASUS MyLogo2</p>
リアパネルI/O ポート	<p>PS/2 キーボードポート (パープル) × 1 PS/2 マウスポート (グリーン) × 1 LAN (RJ-45) ポート × 1 IEEE 1394a ポート × 1 USB 2.0/1.1 ポート × 4 S/P DIF 出力ポート × 1 Parallel ポート × 1 (プリンターポート) COM ポート × 1 8 チャンネルオーディオポート</p>
内部コネクタ	<p>USB 2.0 コネクタ × 2 : 追加 USB 2.0 ポート 4 基に対応 フロッピーディスクドライブコネクタ × 1 IDE コネクタ × 2 : (デバイス 4 台対応) Serial ATA コネクタ × 4 CPU / ケース / 電源ファンコネクタ × 各 1 IEEE 1394a コネクタ × 1 S/P DIF 出力コネクタ × 1 フロントパネルオーディオコネクタ CD オーディオ入力コネクタ 24ピンATX 電源コネクタ 4ピン ATX 12V 電源コネクタ システムパネルコネクタ</p>

(次項へ)

M2N-Plus SLI Vista Edition

仕様一覧

BIOS	4 Mb BIOS ROM、AWARD BIOS、PnP、DMI 2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3
マネージメント機能	PMEによるWOL、PMEによるWOR、ケース開閉検出機能、PXE
アクセサリ	SLI Bridge × 1 UltraDMA 133/100/66 ケーブル × 1 SATA ケーブル × 2 SATA 電源ケーブル × 1 (デバイス 2 台に対応) I/O シールド × 1 ASUS Q-Connector Kit × 1 (USB、システム/パネル; 小売り版のみ) AI Remote (小売り版のみ) ユーザーマニュアル (本書)
サポート CD	各デバイスドライバ ASUS PC Probe II ASUS Update NVIDIA® MediaShield™ RAID アンチウイルスソフトウェア (OEM 版)
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 21.8 cm (12 in x 8.6 in)

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明

製品の概要

Chapter

1

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容.....	1-1
1.3	特長	1-2

1.1 ようこそ

ASUS® M2N-Plus SLI Vista Edition マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供する ASUS の高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中に以下のものが揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ASUS M2N-Plus SLI Vista Edition マザーボード
ケーブル	Serial ATA ケーブル × 2 Serial ATA 電源ケーブル × 1 (デバイス 2 台に対応) Ultra DMA 133/100/66 ケーブル × 1 フロッピーディスクドライブケーブル × 1
アクセサリ	I/O シールド ASUS SLI™ Bridge ASUS Q-Connector Kit × 1 (USB、システムパネル; 小売り商品のみ) AI Remote (小売り商品のみ)
アプリケーション CD	ASUS マザーボードサポート CD
ドキュメント	ユーザーマニュアル (本書)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特長

1.3.1 製品の特長

最新のプロセッサテクノロジー



本マザーボードには AMD Athlon™ 64 X2/Athlon™ 64/Athlon™ 64 FX/Sempron™ プロセッサ対応の 940ピン AM2 ソケットが搭載されています。統合型低レイテンシ高帯域メモリコントローラと拡張性の高いHyperTransport™ 技術ベースのシステムバスの採用で、デジタル媒体等の多様なニーズに対応可能なパワフルなプラットフォームを提供。(詳細: ページ 2-6 参照)

SLI™ (NVIDIA® Scalable Link Interface)



この技術で、1つのシステムで2つのGPU (graphics processing units) の利用が可能です。SLIはPCI Express™ バスアーキテクチャの利点を生かし、知的なハードウェア/ソフトウェアソリューションで複数のGPUが動作可能です。結果、すばらしいグラフィックパフォーマンスが得られるわけです。

NVIDIA nForce® 500 SLI™



NVIDIA nForce® 500 SLI™ MCP (media and communication processors) は、AMDベースのプラットフォームに幅広いソリューションを提供。バススピードを自動的に加速する NVIDIA® LinkBoost™ テクノロジーと、グラフィックスパフォーマンスを拡張する NVIDIA® SLI™ テクノロジーのパフォーマンスがより向上します。

AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology



本マザーボードは、AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology をサポート。CPUのパフォーマンスに応じて、ダイナミックかつ自動的にCPUスピード、電圧、電源を調節します。(詳細: ページ4-24 参照)

DDR2 メモリサポート



本マザーボードは、800/667/533 MHz のデータ転送率のDDR2メモリに対応。最新3Dグラフィックス、マルチメディア、インターネットアプリケーションに対応できるより高速な帯域要求を充たします。デュアルチャンネルDDR2アーキテクチャでシステムメモリの帯域は倍になり、システムのパフォーマンスを增強し、最高帯域12.8 GB/sで混雑時のボトルネックを解消します。(詳細: ページ2-11、12)

Serial ATA 3Gb/s RAID



本マザーボードは、SATA 3Gb/s ストレージ仕様規格をベースとする次世代Serial ATAハードドライブをサポート。オンボードNVIDIA nForce® 500 SLI™ MCPでRAID 0、RAID 1、RAID 0+1、RAID 5、JBODに対応。(詳細: ページ2-25参照)

PCI Express™ インターフェース

本製品はPCI Express と最新の I/O 相互接続テクノロジーをサポートし、PCI バスのスピードアップを図っています。PCI Express は各デバイス間で point-to-point シリアル相互接続を提供し、より高いクロックでの動作を実現しています。この高速インターフェースは既存の PCI 仕様とソフトウェアによる互換性があります。

(詳細: ページ 2-18、19)

Gigabit LAN

NVIDIA® nForce™ 500 SLI™ チップセット内蔵のGigabit LAN コントローラを搭載し、ネットワークのニーズに対応。コントローラはPCI Express セグメントを使用し、より高速なデータ転送率を実現。インターネット、LAN、ファイルの共有に最適です。

(詳細: ページ 2-22 参照)

IEEE 1394a

IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器との接続が柔軟かつ高速になりました。IEEE 1394a インターフェースは、経済的でバンド幅の大きい非同期 (リアルタイム) インターフェースを通じて、コンピュータ、周辺機器、消費者家電 (ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等) との転送率を最高 400 Mbps まで可能にしました。(詳細: ページ 2-22、2-27 参照)

USB 2.0

USB 2.0 仕様を実装して、接続速度を USB 1.1の12 Mbps バンド幅から USB 2.0 の高速 480 Mbpsに大幅に高めています。USB 2.0 は USB 1.1と下位互換性があります。

(詳細: ページ 2-23、2-27参照)

C-Media Superior Quality Audio

C-Media CM6501 オンボード8チャンネルオーディオ CODECで、USB バス上のオーディオ信号を転送します。Microsoft Vista 対応。(詳細: ページ: 5-13~15参照)

S/P DIF デジタルサウンド 対応

リアパネルにあるインターフェースがS/P DIF 技術に対応しており、お使いのコンピュータをパワフルなオーディオおよびスピーカースystemにデジタル接続できる高性能エンターテインメントシステムに変えます。(詳細: ページ2-23、2-30参照)



本機能にはC-Media オフィシャルドライバのインストールが必要です。

1.3.2 ASUS AI Lifestyle



AI Remote



AI Remote はリモコンの革命児。ソファにいながらボタンを押すだけで、PCの電源の切り替えやアプリケーションの起動が AP Trigger 機能で操作できます。AI Gear や AI Nap の切り替えや、メディアプレーヤーのコントロールも可能。AI Remote ならリモコン操作が楽しくなります。(詳細: ページ 5-24 参照)

ASAP (ASUS Accelerated Propeller)



ASAP は Windows® ReadyBoost™ 技術をサポート。Windows® Vista 環境でのシステムパフォーマンスと生産性が向上します。(詳細: ページ 5-32 参照)

AP Trigger



AP Trigger なら、短時間で直接メディアやアプリケーションの起動/レジュームができます。AI Remote のボタン操作だけで、PC をオンにし、予め設定したアプリケーションを同時に起動します。

TPM Support



本マザーボードは TPM (Trusted Platform Module) をサポート。高水準の暗号化/暗号解読技術を通して高度なデータ保護を実現し、プラットフォームの整合性が増します。Windows® Vista BitLocker™ Drive Encryption ハードウェアの要求も充たしており、より強固なセキュリティ環境を構築します。(詳細: ページ 2-30、4-38 参照)



TPM モジュールは別売りとなっております。ASUS の TPM モジュールのみをご使用ください!

AI Gear



AI Gear には CPU と Vcore 電圧を調節できるオプションが 4 つあり、ノイズと電力消費を抑えることができます。最適なモードを選択してください。(詳細: ページ 5-22 参照)

AI Nap



コンピュータを使用していない時、システムを最も低い電力とノイズで動作させることができます。システムをウェーク/OS 環境に戻すには、マウスをクリックするか、キーを押すだけです。(詳細: ページ 5-23 参照)

1.3.3 ASUSの独自機能

ファンレスデザイン



ASUS ファンレスデザインはマザーボード内の主な熱源からの熱を多方向に逃すことで、システム全体の温度をファンに頼らずに効果的に低下させます。その結果、動作音は小さくなりシステムの寿命が延びます。ASUSはマザーボードにおける熱問題の解決に多くの努力を費やし、CPU、電源、ノースブリッジ、サウスブリッジでその効果が顕著に現われます。ヒートシンクそして戦略的なボードレイアウトは、特別に設計されたもので最高の散熱効果が期待できます。

ASUS Q-Fan 2



システムの負荷に応じてCPUファンとケースファン速度を調整し、ノイズを抑えながら効果的に冷却します。(詳細4-32、33参照)

ASUS MyLogo2™



この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。(詳細: ページ 5-9、10 参照)

ASUS CrashFree BIOS 3



破損したBIOS データを BIOSファイルを含むUSB フラッシュディスクから復旧することができます。このユーティリティにより、交換用 BIOS チップの購入が不要になりました。(詳細: ページ 4-9 参照)

ASUS EZ Flash 2



OSをロードする前でも、予め設定したホットキーを押すだけでBIOSの更新が簡単に行えます。OSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。(詳細: ページ 4-5 参照)

ASUS Q-Connector



ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単にできます。(詳細: ページ 2-33 参照)

Green ASUS



本マザーボードとパッケージは、欧州連合のRoHS指令(電気電子機器の特定有害物質使用規制)の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

1.3.4 ASUS の各機能とサポートしている OS

下の表はASUS の各機能をサポートしているOSをリストにしたものです。

	Win 2000	XP 32bit	XP 64bit	Vista 32bit	Vista 64bit
AI Remote		v	v	v	v
AP Trigger		v	v	v	v
ASAP	USB Flash としてのみ機能			v	v
AI Gear	v	v	v	v	v
AI Nap	v	v	v	v	v
PC Probe II	v	v	v	v	v

システムの組み立てにおけるハードウェア
のセットアップ手順と、マザーボードのジャ
ンパやコネクタに関する説明

ハードウェア 2

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.3	CPU	2-6
2.4	システムメモリ	2-11
2.5	拡張スロット	2-17
2.6	ジャンパ	2-20
2.7	コネクタ	2-22

2.1 始める前に

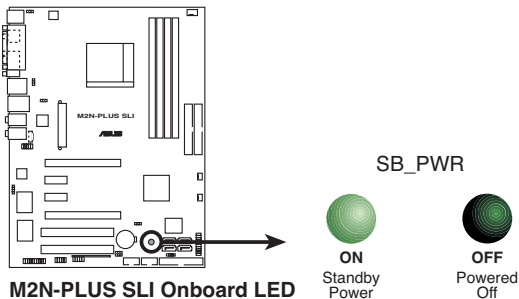
マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。



- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置るか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボードLED

スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

2.2.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

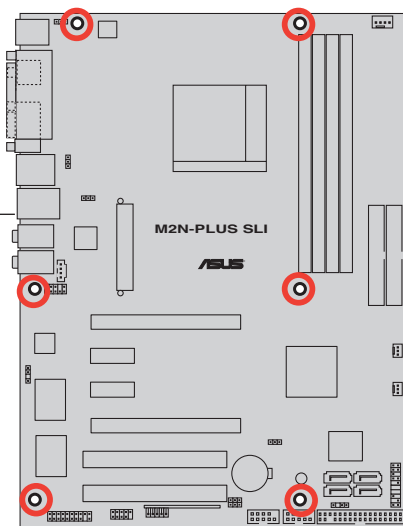
2.2.2 ネジ穴

ネジ穴は6カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。

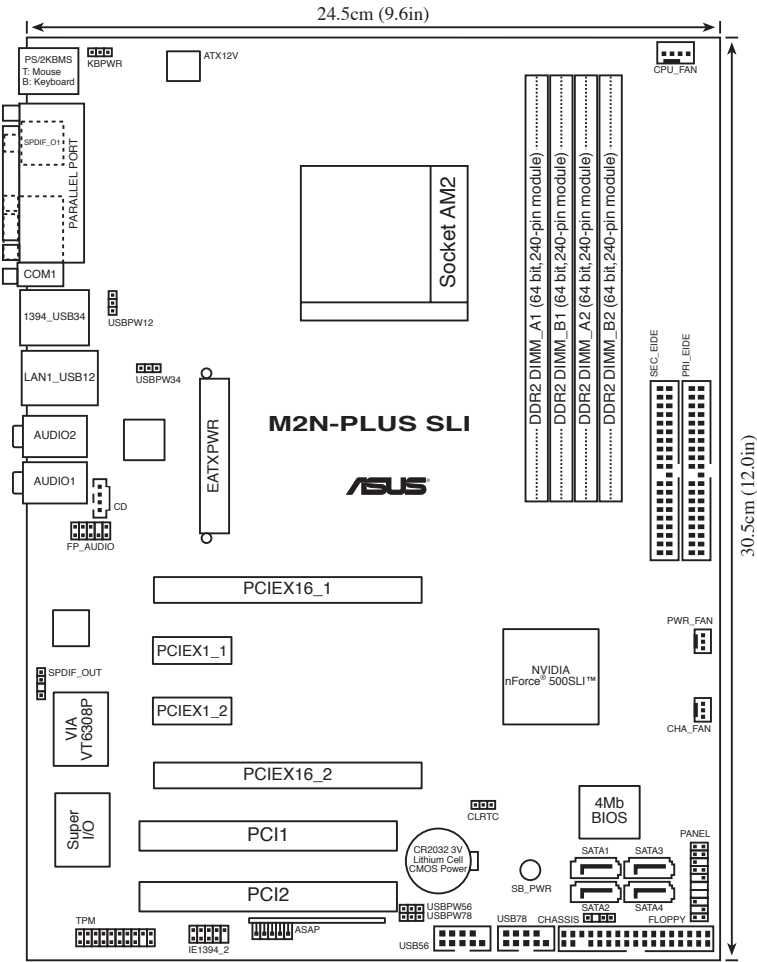


ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に合わせます。



2.2.3 マザーボードのレイアウト



リアパネルコネクタと内部コネクタの詳細についてはページ2-22「2.7 コネクタ」をご覧ください。

2.2.4 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. DDR2 メモリスロット	2-11
2. PCI スロット	2-18
3. PCI Express x 1 スロット	2-18
4. PCI Express x16 スロット	2-19

ジャンパ	ページ
1. RTC RAM のクリア (3ピン CLRTC)	2-20
2. USB デバイスウェークアップ(3ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)	2-21
3. キーボード電源 (3ピン KBPWR)	2-21

リアパネルコネクタ	ページ
1. PS/2 マウスポート (グリーン)	2-22
2. パラレルポート	2-22
3. IEEE 1394a ポート	2-22
4. LAN (RJ-45) ポート	2-22
5. リアスピーカー出力ポート (ブラック)	2-22
6. サイドスピーカー出力ポート (グレー)	2-22
7. ライン入力ポート (ライトブルー)	2-22
8. ライン出力ポート (ライム)	2-22
9. マイクポート (ピンク)	2-23
10. センター/サブウーファ ポート (オレンジ)	2-23
11. USB 2.0 ポート 1 と 2、3 と 4	2-23
12. Serial ポート (COM ポート)	2-23
13. 同軸 S/P DIF 出力ポート	2-23
14. PS/2 キーボードポート(パープル)	2-23

内部コネクタ	ページ
1. フロッピーディスクドライブ コネクタ (34-1 ピン FLOPPY)	2-24
2. IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE、SEC_IDE)	2-24
3. NVIDIA® nForce® 500 SLI Southbridge Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド]、SATA2 [レッド]、SATA3 [レッド]、SATA4 [レッド])	2-25
4. CPU、ケース、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン PWR_FAN、3ピン CHA_FAN)	2-26
5. USB コネクタ (10-1 ピン USB56、USB78、ASAP)	2-27
6. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1ピン IE1394_2)	2-27
7. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)	2-28
8. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)	2-28
9. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP_AUDIO)	2-29
10. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD)	2-29
11. デジタルオーディオコネクタ(4-1ピン SPDIF_OUT)	2-30
12. TPM コネクタ (20-1 ピン TPM)	2-30
13. システムパネルコネクタ (20-8ピン PANEL)	2-31
• システム電源 LED (2ピン PLED)	
• HDD動作LED (2ピン IDE_LED)	
• システム警告スピーカー (4ピン SPEAKER)	
• ATX 電源ボタン / ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)	
• リセットボタン (2ピン RESET)	

2.3 CPU

本マザーボードには Athlon™ 64 X2/Athlon™ 64/Athlon™ 64FX/Sempron™ プロセッサ対応の 940ピン AM2 ソケットが搭載されています。

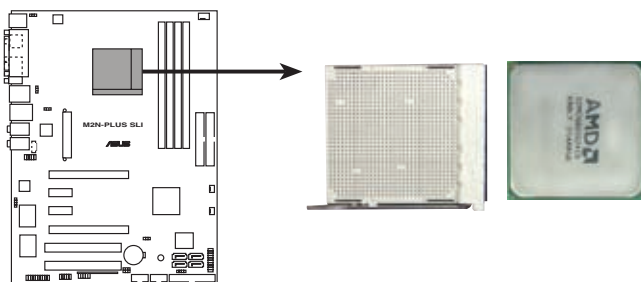


AM2 ソケットのピン配列は AMD Opteron プロセッサ用の 940ピンソケットと異なります。お持ちの CPU が AM2 ソケットに対応していることをご確認ください。また、この CPU は取り付ける向きが決まっています。無理にはめ込まないでください。破損の原因となります。

2.3.1 CPUを取り付ける

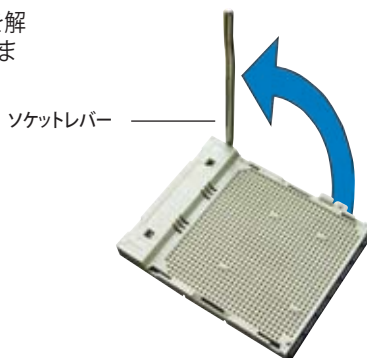
手順

1. マザーボードの CPU ソケットの位置を確認します。



M2N-PLUS SLI CPU Socket AM2

2. 脇にあるレバーを押し、ソケットを解除します。次に、90° ほど持ち上げます。



90° ほど持ち上げないと、正しく取り付けることができません。ご注意ください。

3. CPU に書かれている金色の三角形がソケットとソケットの三角の部分にぴったり合うようにCPUをソケットの上に載せます。
4. CPU をソケットにしっかり押します。

金色の三角形

小さい三角形



5. CPUがしっかりはまったら、ソケットのレバーを押し、CPU を固定します。レバーがしっかりはまると、カチッと音がします。
6. CPU ヒートシンクとファンをそのパッケージ付属のマニュアル等の指示に沿って取り付けます。



2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

AMD Athlon™ 64FX/Athlon™ 64/Athlon™ 64 X2/Sempron™ プロセッサには専用のヒートシンクとファンを使用してください。十分な散熱効果とパフォーマンスが得られません。



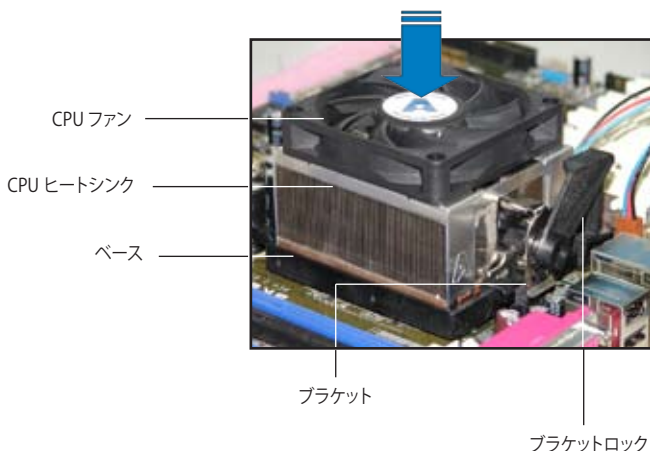
必ずAMD公認のヒートシンクとファンを使用してください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 4つのファスナーがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。

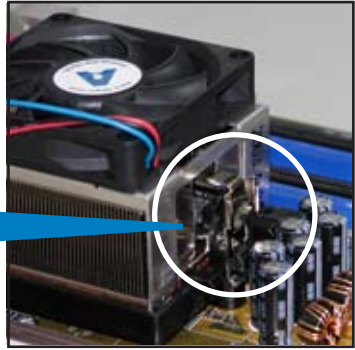
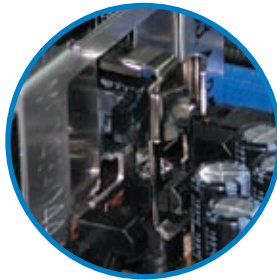


- ベースは既にマザーボードに取り付けられています。
- ベースを取り外す必要はありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にご購入の場合は、サーマルグリースがCPU、ヒートシンク、ファンに対応しているか、事前に必ず確認してください。



箱入りのCPU ヒートシンクには取り付け方法を記載した説明書等が付属しています。本マニュアルと内容が異なる場合は、付属の説明書等の指示に従ってください。

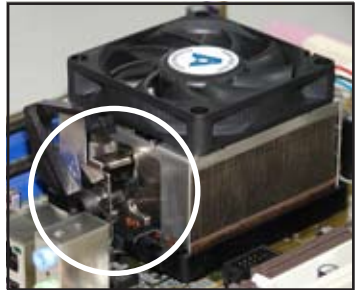
2. ブラケットの一方をベースにかぶせます。



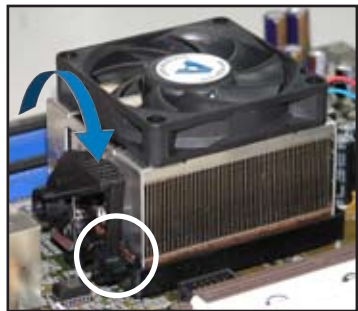
3. ブラケットのもう一方を(ブラケットロックに近い方)ベースにはめます。音がするまで、しっかりはめてください。



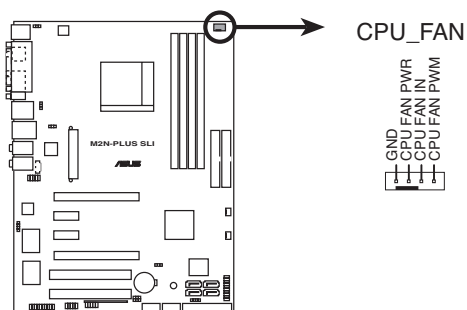
ヒートシンクとファンがベースにしっかりはまっていることを確認してください。はまっていないと、ブラケットが所定の位置に固定されません。



4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。



5. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



M2N-PLUS SLI CPU fan connector



- CPUファンのケーブルを必ず接続してください。接続しないと、ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。
- このコネクタは、旧型の3ピンCPUファンにも対応しています。

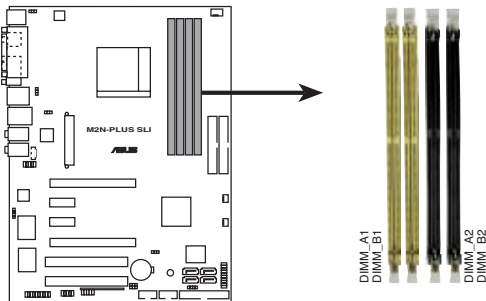
2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本製品には、DDR2 SDRAM に対応したメモリスロットが4つ搭載されています。

DDR2メモリは DDR メモリと同様の大きさですが、240ピンです (DDR メモリは184ピン)。DDR2 メモリ は DDR メモリのスロットに取り付けることができないように、異なるノッチが付けられています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



M2N-PLUS SLI 240-pin DDR2 DIMM slots

チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.4.2 メモリ構成

256 MB、512 MB、1 GB、2GB unbuffered ECC/non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。

推奨メモリ構成

モード	スロット			
	DIMM_A1	DIMM_B1	DIMM_A2	DIMM_B2
シングル チャンネル	使用	－	－	－
	－	使用	－	－
	－	－	使用	－
	－	－	－	使用
デュアル チャンネル (1)	使用	－	使用	－
	－	使用	－	使用
デュアル チャンネル (2)	使用	使用	使用	使用



- メモリを1枚だけ使用する場合は、DDR2 メモリをスロット DIMM_A1 または DIMM_B1に取り付けてください。より良いパフォーマンスが得られます。
- デュアルチャンネル (2) は、以下のように取り付けてください。
 - 同一のメモリを4つのスロット全てに取り付けます。或いは、
 - 同一のメモリ1組を DIMM_A1 と DIMM_B1 (イエロー)に、もう1組の同一メモリを DIMM_A2 と DIMM_B2 (ブラック)に取り付けます。
- デュアルチャンネルモードには常に同一の DDR2 メモリ1組を使用してください。最大のパフォーマンスを得るには、同じベンダーのメモリの使用をお勧めします。詳細はASUSのサイトの最新の推奨ベンダーリスト (QVL) をご覧ください。(www.asus.com)



Windows® XP 32bit バージョンに関する注記

OSの制限により、システムデバイスにメモリスペースが割り当てられます。Windows XP 32bit バージョンのOSをインストールしている場合は、合計 3 GB未満のシステムメモリを取り付けることをお勧めします。それ以上のメモリを取り付けても使用上の問題はありますが、利点はありません。

詳細は ASUSの FAQ サイトをご覧ください (日本語の記載あり)。

<http://support.asus.com/faq/faq.aspx?SLanguage=en-us>

一般検索から、右の図のように選択し、検索をクリック。表示された記事の中から「4GB メモリを取り付けても、検出されるメモリサイズが4GBに満たない問題」という記事をご覧ください。



また、下のURLから、サードパーティの記事を見ることもできます (英語)。

http://dlsrvr01.asus.com/pub/ASUS/mb/4GB_Rev1.pdf

<http://www.intel.com/support/motherboards/server/sb/cs-016594.htm>



本マザーボードは、Windows® XP Professional x64 Edition と Windows® Vista x64 Edition OSで、最大8 GBのメモリを取り付けることができます。各スロットに取り付けることができるメモリは 最大2 GB です。

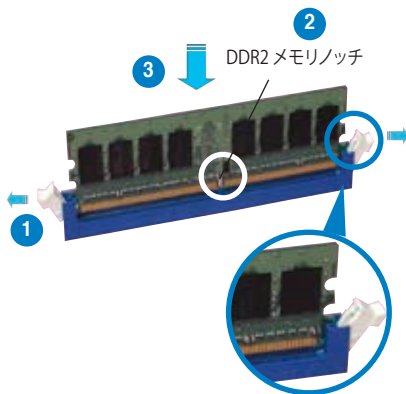
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

手順

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



ロック解除されたクリップ



- DDR2メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。
- DDR2メモリのスロットはDDRメモ리를サポートしていません。DDR2メモリのスロットにDDRメモリを取り付けしないでください。

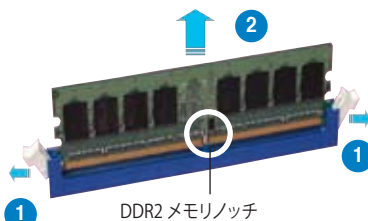
2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぺがります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。



2. スロットからメモリを取り外します。

M2N-Plus SLI Vista Edition マザーボード メモリのQVL (推奨ベンダーリスト)

DDR2-800

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No.	メモリ サポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	K4T51083QC	SS	KVR800D2N5/512	•	•	•
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2LL/1G	•	•	•
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2LLK2/1GN	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T256800AF25F	DS	HYS64T64020HU-25F-A	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-25F	SS	HYS64T32000HU-25F-B	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	SS	HYS64T64000HU-25F-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	DS	HYS64T128020HU-25F-B	•	•	•
512MB	SAMSUNG	EDD339XX	SS	M378T6553CZ3-CE7	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE7	SS	M378T3354CZ3-CE7	•	•	•
512MB	SAMSUNG	ZCE7K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CE7	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821BFP-S5	SS	HYMP564U64BP8-S5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821BFP-S5	DS	HYMP512U64BP8-S5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	DS	HYMP512U64CP8-S5	•	•	•
512MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	SS	MT8HTF6464AY-80EA3	•	•	•
1024MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	DS	MT16HTF12864AY-80EA3	•	•	•
512MB	MICRON	5ZD22D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	•	•	•
1024MB	MICRON	5ZD22D9GKX	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	•	•	•
512MB	MICRON	6CD22D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	•	•	•
1024MB	MICRON	6CD22D9GKX	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	•	•	•
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	DS	CM2X1024-6400C4	•	•	•
1024MB	ELPIDA	E1108AB-8E-E(ECC)	SS	EBE10EE8ABFA-8E-E	•	•	•
2048MB	ELPIDA	E1108AB-8E-E(ECC)	DS	EBE21EE8ABFA-8E-E	•	•	•
512MB	A-DATA	N/A	SS	M20AD6G3H3160J1E52	•	•	•
1024MB	A-DATA	AD29608A8A-25EG	DS	M20AD6G3J4170G1E53	•	•	•
1024MB	A-DATA	K4T51083QC(ECC)	DS	M20AD6G3J4170G1E53	•	•	•
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD	•	•	•
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD3	•	•	•
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU512E800C5K1C	•	•	•
1024MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU01GE800C5K1C	•	•	•
512MB	Transcend	K4T51083QC	SS	TS64MLQ64V8J	•	•	•
1024MB	Transcend	K4T51083QC	DS	TS128MLQ64V8J	•	•	•

DDR2-667

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No.	メモリ サポート		
					A*	B*	C*
256MB	KINGSTON	HYB18T256800AF3	SS	KVR667D2N5/256	•	•	•
512MB	KINGSTON	D6408TEBGL3U	SS	KVR667D2N5/512	•	•	•
1024MB	KINGSTON	D6408TEBGL3U	DS	KVR667D2N5/1G	•	•	•
256MB	KINGSTON	HYB18T256800AF3S	SS	KVR667D2N5/256	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T512160AF-3S	SS	HYS64T32000HU-3S-A	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800AF3S	SS	HYS64T64000HU-3S-A	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T256800AF3S(ECC)	SS	HYS72T32000HU-3S-A	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800AF3S(ECC)	SS	HYS72T64000HU-3S-A	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800AF3S(ECC)	DS	HYS72T128020HU-3S-A	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S(ECC)	DS	HYS72T128020HU-3S-B	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-3S	SS	HYS64T32000HU-3S-B	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	SS	HYS64T64000HU-3S-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	DS	HYS64T128020HU-3S-B	•	•	•
512MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	SS	M378T6553CZ0-CE6	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	SS	M378T3354CZ3-CE6	•	•	•
512MB	SAMSUNG	K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CE6	•	•	•
1024MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CE6	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5	SS	HYMP564U64AP8-Y5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS1G831FP-Y5(ECC)	SS	HYMP112U72P8-Y5	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5(ECC)	SS	HYMP564U72AP8-Y5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5(ECC)	DS	HYMP512U72AP8-Y5	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4	SS	HYMP564U64AP8-Y4	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4(ECC)	SS	HYMP564U72AP8-Y4	•	•	•
256MB	CORSAIR	MIII00605	SS	V5256MB667D2	•	•	•
512MB	CORSAIR	64M8CFEG	SS	V5512MB667D2	•	•	•
1024MB	CORSAIR	64M8CFEG	DS	V51GB667D2	•	•	•
256MB	ELPIDA	E2508AB-6E-E	SS	EBE25UC8ABFA-6E-E	•	•	•
512MB	ELPIDA	E5108AE-6E-E	SS	EBE51UD8AEFA-6E-E	•	•	•
512MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	SS	M20AD5G3H316611CS2	•	•	•
1024MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	DS	M20AD5G3H417611CS2	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL664.16FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD2	•	•	•
512MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E0628F	SS	AU512E667C5KBGC	•	•	•
1024MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E	DS	AU01GE667C5KBGC	•	•	•
512MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	SS	KLCC28F-A8KB5	•	•	•
512MB	Transcend	E5108AE-6E-E	SS	TS64MLQ64V6J	•	•	•
1024MB	Transcend	E5108AE-6E-E	DS	TS128MLQ64V6J	•	•	•
512MB	Transcend	J12Q3AB-6	SS	JM367Q643A-6	•	•	•
1024MB	Transcend	J12Q3AB-6	DS	JM388Q643A-6	•	•	•
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T6UA512C5	•	•	•
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T6UB1GC5	•	•	•
512MB	SMART	G64M8XB3TIX4TUE	SS	TB3D2667C58S	•	•	•
512MB	SMART	G64M8XB3TIX4TUE	DS	TB4D2667C58D	•	•	•

DDR2-533

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No.	メモリサポート		
					A*	B*	C*
256MB	KINGSTON	E5116AF-5C-E	SS	KVR533D2N4/256	•	•	•
512MB	KINGSTON	HYB18T512800AF37	SS	KVR533D2N4/512	•	•	•
1024MB	KINGSTON	5YD1ID9GCT	DS	KVR533D2N4/1G	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	SS	HYS64T64000HU-3.7-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	DS	HYS64T128020HU-3.7-B	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCD5	SS	M378T3354C23-CD5	•	•	•
512MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	SS	M378T6553C23-CD5	•	•	•
1024MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	DS	M378T2953C23-CD5	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821F-C4	SS	HYMP564U648-C4	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821F-C4(ECC)	DS	HYMP512U728-C4	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821FP-C4(ECC)	SS	HYMP564U728-C4	•	•	•
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-C3	SS	HYMP564U64AP8-C3	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821AFP-C3	DS	HYMP512U64AP8-C3	•	•	•
1024MB	CORSAIR	64M8CEDG	DS	V51GB533D2	•	•	•
512MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	SS	EBE51UD8ABFA-5C-E	•	•	•
512MB	KINGMAX	E5108AE-5C-E	SS	KLBC28F-A8EB4	•	•	•
1024MB	KINGMAX	E5108AE-5C-E	DS	KLBD48F-A8EB4	•	•	•
512MB	KINGMAX	KKEA88E4AAK-37	SS	KLBC28F-A8KE4	•	•	•
1024MB	KINGMAX	5MB22D9DCN	DS	KLBD48F-A8ME4	•	•	•
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T5UA512C4	•	•	•
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T5UB1G8C4	•	•	•



- A*: シングルチャンネルメモリ構成として、メモリ1枚を任意のスロットに取り付けることが可能。
- B*: 1組のデュアルチャンネルメモリ構成として、メモリ1組をイエローとブラックのスロットのどちらか一方に取り付けることが可能。
- C*: 2組のデュアルチャンネルメモリ構成として、メモリ4枚をイエローとブラックのスロットの両方に取り付けることが可能。



最新の DDR2-533/667/800 MHz QVLは、ASUSのWebサイト(<http://www.asus.co.jp/>)をご覧ください。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます。(マザーボードをケースに取り付けている場合)
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 4 をご覧ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次項の表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。詳細は次のページの表をご覧ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先 順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	–	IRQ#9 にリダイレクト
4	12	通信ポート (COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	プリンタポート (LPT1)*
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	PS/2 互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリIDEチャンネル

* 上の IRQ はISA デバイスまたはPCI デバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI 1	–	共有	–	–	–	–	–	–
PCI 2	–	–	共有	–	–	–	–	–
オンボード 1394	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIe x16_1	共有	–	–	–	–	–	–	–
PCIe x16_2	–	–	–	–	–	共有	–	–
PCIe x 1_1	–	–	–	–	–	–	共有	–
PCIe x 1_2	–	–	–	–	共有	–	–	–

2.5.4 PCI スロット

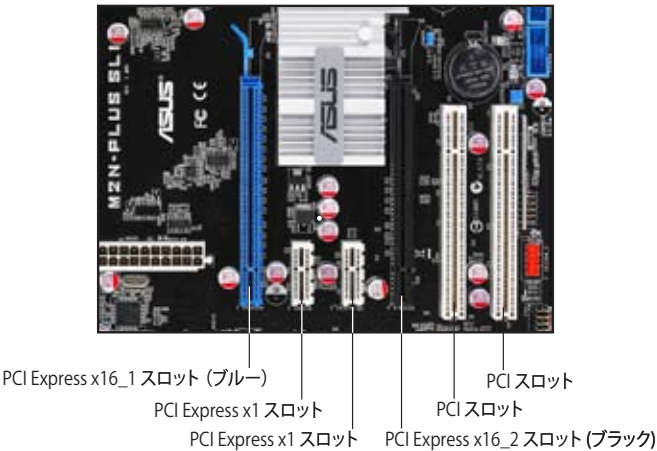
PCI スロットは LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は次項の写真をご参照ください。

2.5.5 PCI Express x1 スロット

本マザーボードはPCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード等のPCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は次項の写真をご参照ください。

2.5.6 PCI Express x16 スロット

本マザーボードは、PCI Express 規格準拠のNVIDIA® SLI™-ready PCI Express x16 ビデオカードを 2 枚取り付けることができます。スロットの位置は下の写真をご参照ください。



- ビデオカードを 2 枚使用するときには散熱効果を高めるため、リアケースファンをケースコネクタ (CHA_FAN1) に接続してください。
(詳細：ページ 2-26 参照)
- チップセットの制限により、ブラックの PCI Express x16 (PCIEX16_2) スロットは最大 x8 スピードで動作します。
- NVIDIA® SLI™ モードを利用する場合は、供給電力の大きい電源装置をご使用ください。(詳細 2-28、2-29 参照)
- NVIDIA SLI™ 技術の詳細はChapter 6 をご覧ください。

モード	PCIe x16_1 (ブルー) スロット		PCIe x16_2 (ブラック) スロット	
	カードタイプ	スピード	カードタイプ	スピード
SLI 以外のモード	PCIe x16 ビデオカード	x16	NA	–
	PCIe x16 ビデオカード	x8	PCIe x16 ビデオカード	x8
	PCIe x16 ビデオカード	x8	その他の PCIe デバイス	x8, x4, x1
デュアルビデオカード使用の SLI モード	同一の 2 枚の NVIDIA® SLI™ Edition ビデオカード：x8, x8			

2.6 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア (3ピン CLRTC)

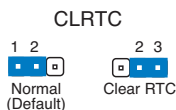
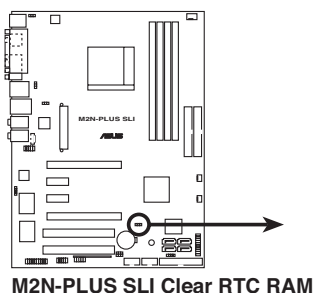
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRTCのピン1-2にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



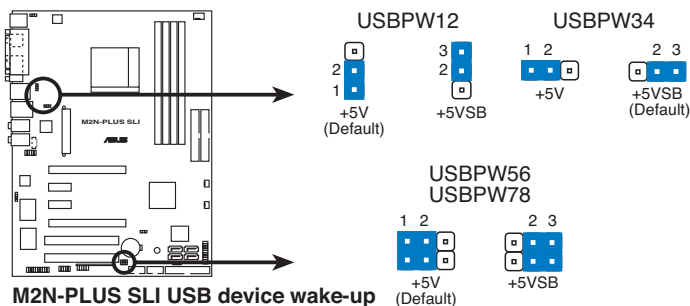
RTC RAMをクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



- CMOS クリア後はクリアする前の BIOS 設定を再入力してください。
- オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、RTC をクリアする必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合、C.P.R.(CPU Parameter Recall)機能を使用してください。システムを停止して再起動すると、BIOS は自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。

2. USB デバイスウェークアップ (3ピン USBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

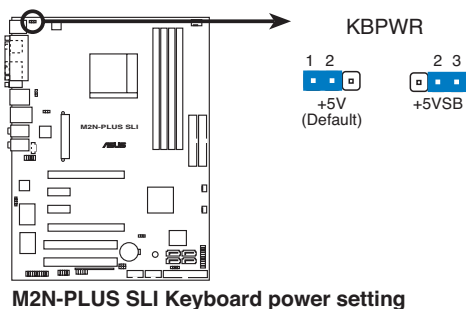
USB デバイスを利用して、S1 スリープモード(CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) から復帰するには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード (CPU への電源供給がゼロの状態、スローリフレッシュ状態の DRAM、電力削減モード) から復帰するには、+5VSB に設定します。



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムは復帰しません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過してはいけません。

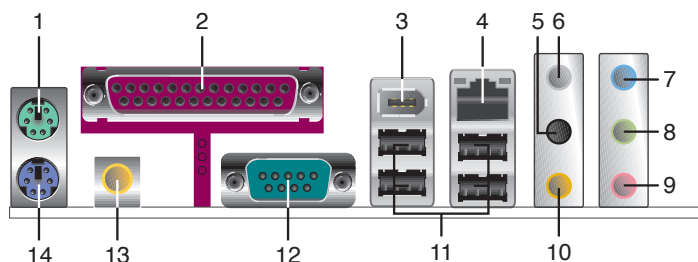
3. キーボード電源(3ピン KBPWR)

このジャンパはキーボードウェークアップ機能の切り替え用のジャンパです。キーボードのキーを押してコンピュータをウェークアップさせる場合は (初期設定は [Disabled]) このジャンパをピン 2-3 (+5VSB) にします。この機能には +5VSB リード線に最低 1A 供給可能な ATX 電源と BIOS 設定が必要です。詳細はセクション「4.5.3 APM Configuration」をご覧ください。



2.7 コネクタ

2.7.1 リアパネルコネクタ



1. **PS/2 マウスポート (グリーン)**: PS/2マウス用です。
2. **パラレルポート**: この 25ピンのポートにパラレルプリンター/スキャナー、その他のパラレルデバイスを接続します。
3. **IEEE 1394a ポート**: この 6 ピン IEEE 1394a ポートはオーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
4. **LAN (RJ-45) ポート**: 外部 Attansic PHYを使用する NVIDIA® nForce™ 500 Gigabit MACにより、ローカルエリアネットワーク (LAN)と Gigabit Ethernet 接続が可能です。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。

LAN ポートLED

Activity/Link LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
オレンジ	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps

ACT/LINK LED スピード LED



LAN ポート

5. **リアスピーカ出力ポート (ブラック)**: このポートは 8 チャンネルのオーディオ構成で使用します。
6. **サイドスピーカ出力ポート (グレー)**: 4 チャンネル、6 チャンネル、8 チャンネルのオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
7. **ライン入力ポート (ライトブルー)**: テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
8. **ライン出力ポート (ライム)**: ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8 チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。

9. **マイクポート(ピンク)**:マイクを接続します。
10. **センター/サブウーファポート(オレンジ)**:センター／サブウーファースピーカーを接続します。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、以下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカ出力	フロントスピーカ出力	フロントスピーカ出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	－	－	センタ/サブウーファ	センタ/サブウーファ
ブラック	－	－	－	リアスピーカ出力
グレイ	－	サイドスピーカ出力	サイドスピーカ出力	サイドスピーカ出力

11. **USB 2.0 ポート 1 と 2、3と 4**:USB 2.0デバイスを接続することができます。



IR Receiver は必ずUSB ポート 3 と 4に接続してください。他のポートはリモコン機能をサポートしていません。他のUSB デバイスを USB ポート 3 と 4に接続すると、システムの電源がオンになります。

12. **シリアルポート (COM ポート)**:この 9 ピンのCOM ポートはポインティングデバイスとその他のシリアルデバイス用です。i
13. **同軸 S/P DIF 出力ポート**:同軸 S/P DIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
14. **PS/2 キーボードポート (パープル)**:PS/2 キーボード用です。

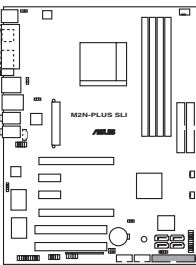
2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY)

フロッピーディスクドライブ(FDD)ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



M2N-PLUS SLI Floppy disk drive connector

FLOPPY
注意：フロッピーケーブルの赤いラインと
PIN1の向きを合わせてください。
PIN 1

2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE、SEC_IDE)

Ultra DMA 133/100/66 ケーブル用です。各Ultra DMA 133/100/66 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

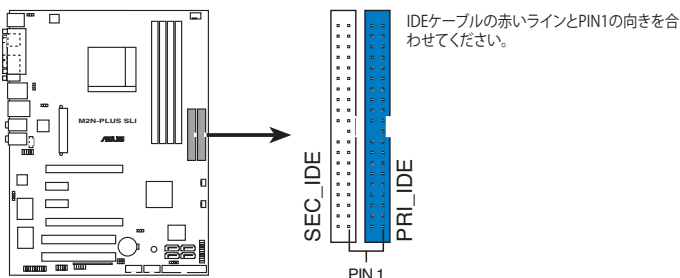
	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	ケーブルセレクト/マスター	—	ブラック
デバイス 2 台	ケーブルセレクト	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/グレー
	スレーブ	スレーブ	



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66 IDE デバイスの場合は、80コンダクタIDEケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「ケーブルセレクト」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。



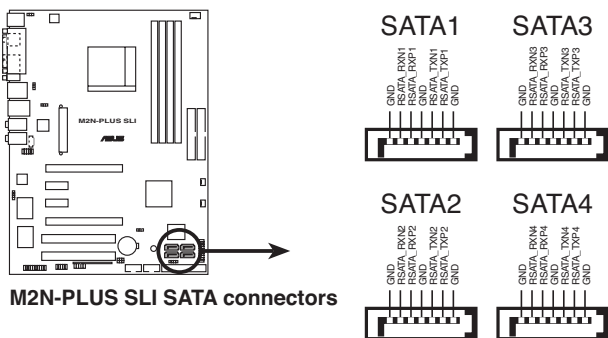
M2N-PLUS SLI IDE connectors

3. NVIDIA® nForce® 500 SLI Southbridge Serial ATA コネクタ
(7ピン SATA1 [レッド]、SATA2 [レッド]、SATA3 [レッド]、SATA4 [レッド])
これらのコネクタはSerial ATA 3.0 Gb/s ハードディスクと光学ディスクドライブ
に使用するSerial ATA ケーブル用です。Serial ATA 3.0 Gb/s はSerial ATA 1.5
Gb/s と下位互換があります。

Serial ATA HDDを取り付けた場合は、オンボード NVIDIA® MediaShield™ コント
ローラを使用して RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、RAID 5、JBOD を構築することが
できます。



これらコネクタのRAID 機能は初期設定で [Disabled] に設定されています。これら
のコネクタで Serial ATA RAID を構築する場合は、BIOS の SATA Configuration サ
ブメニューで「RAID Enabled」の項目を有効にしてください。詳細はセクション
「4.4.4 オンボードデバイス設定構成」をご覧ください。

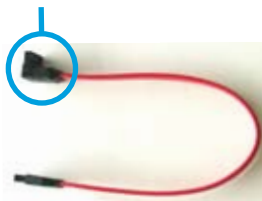


M2N-PLUS SLI SATA connectors



SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

直角部分

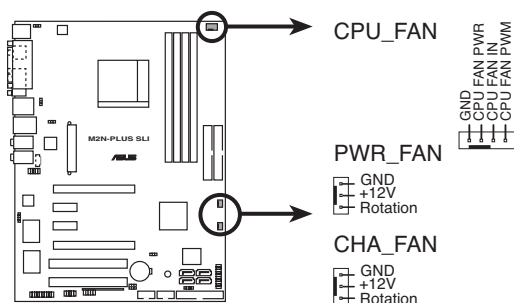


4. CPU、ケース、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン PWR_FAN、3ピン CHA_FAN)

各ファンコネクタは +12V で、350 mA ~ 2000 mA (最高 24 W) または合計 1 A ~ 7 A (最高 84 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ファンケーブルをファンコネクタに必ず接続してください。ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



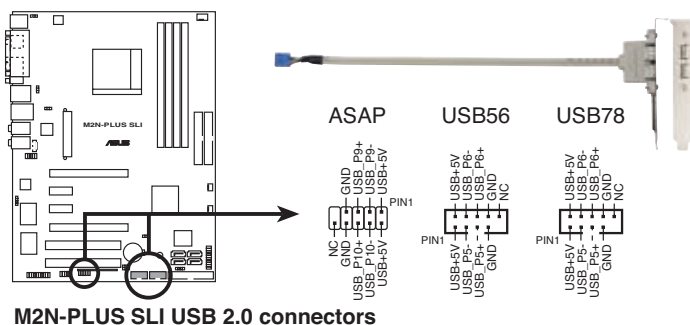
M2N-PLUS SLI Fan connectors



- CPU_FAN コネクタと CHA_FAN コネクタのみが ASUS Q-Fan機能に対応しています。
- ビデオカードを 2 枚取り付けの場合は、散熱の観点からリアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

5. USB コネクタ (10-1ピン USB56、USB 78、ASAP)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



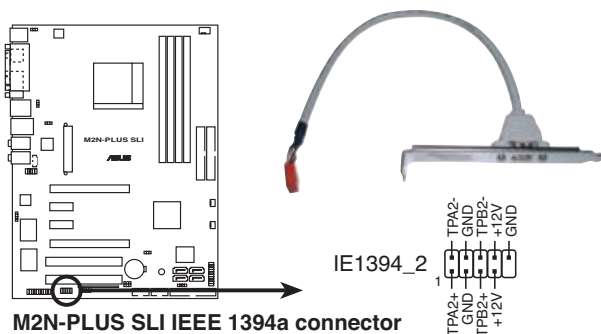
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



USB モジュールは別売りとなっております。

6. IEEE 1394a ポート コネクタ (10-1 ピン IE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。

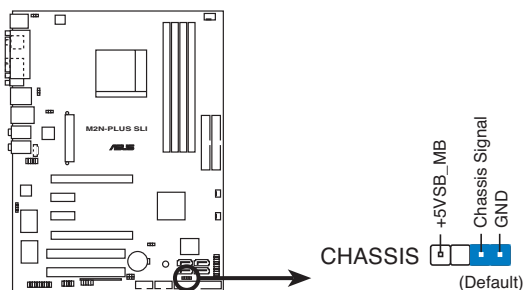


IEEE 1394a モジュールは別売りとなっております。

7. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)

ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントを取り外したり交換するときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

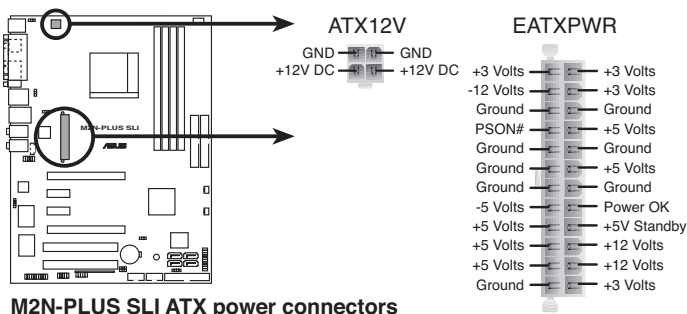
初期設定値では、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外して専用ケーブルを接続してください。



M2N-PLUS SLI Chassis intrusion connector

8. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



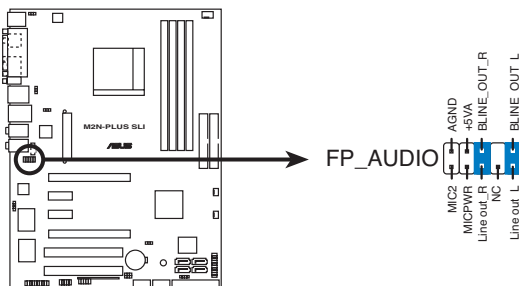
M2N-PLUS SLI ATX power connectors



- 完全なシステムには、最低 600 W ATX 12 V 仕様 2.0 対応電源ユニット (またはそれ以降) を使用することをお勧めします。
- 4ピン ATX +12 V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分な場合、システムが不安定になる、或いはシステムが起動できなくなることがあります。

9. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピンFP_AUDIO)

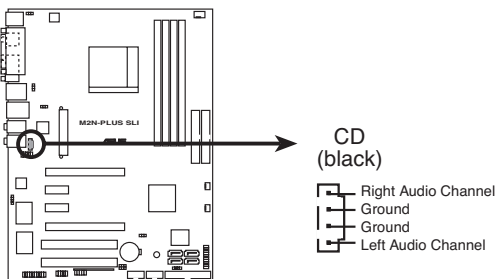
ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、レガシー AC '97 オーディオ標準規格をサポートしています。フロントパネルオーディオ I/O モジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。



M2N-PLUS SLI Front panel audio connector

10. 内部オーディオコネクタ (4ピンCD)

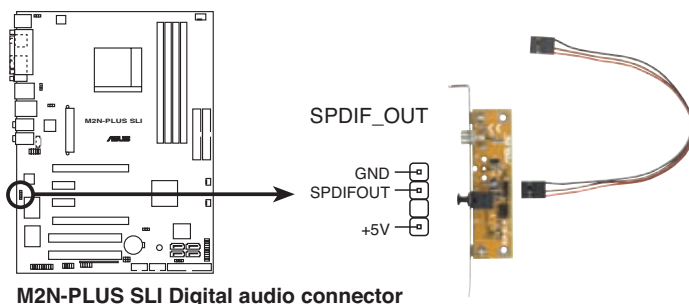
CD-ROM、TVチューナー、MPEG カード等のサウンドソースより、ステレオオーディオ入力ができます。



M2N-PLUS SLI Internal audio connector

11. デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)

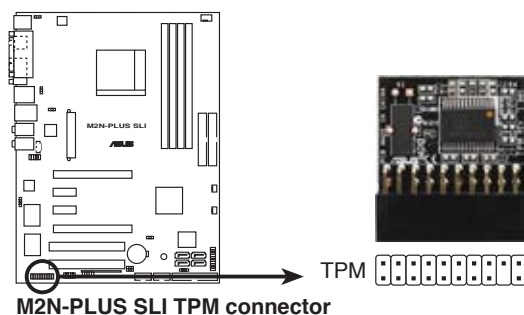
このコネクタは追加のS/P DIFポート用で、S/P DIF 出力ケーブルをこのコネクタに接続します。



S/P DIF モジュールは別売りとなっております。

12. TPM コネクタ (20-1 ピン TPM)

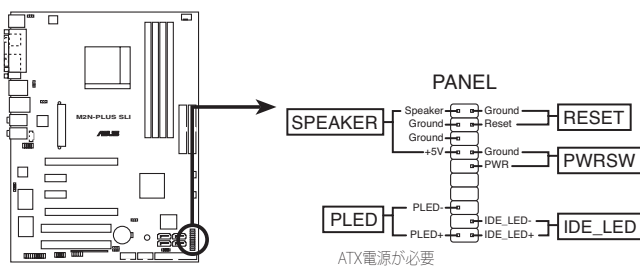
このコネクタは TPM (Trusted Platform Module) システムをサポートし、大切なキーやデジタル認証、パスワード、データを保存します。またTPM システムはネットワークのセキュリティが向上し、デジタル認識を保護、プラットフォームの統合性が高まります。詳細はセクション「4.6.6 セキュリティ」をご覧ください。



TPM モジュールは別売りとなっております。ASUS の TPM モジュールのみをご使用ください！

13. システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



M2N-PLUS SLI System panel connector

- **システム電源 LED (2ピン PLED)**

システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯しシステムがスリープモードに入ると点滅します。

- **HDD アクティビティ LED (2ピン IDE_LED)**

HDDアクティビティLED用です。HDDアクティビティLEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯または点滅します。

- **システム警告スピーカー (4ピン SPEAKER)**

システム警告スピーカー用です。スピーカーはビープ音で警告を発します。

- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)**

システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを4秒以上押すと、システムの電源はオフになります。

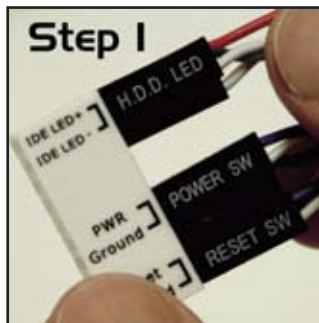
- **リセットボタン (2ピン RESET)**

ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

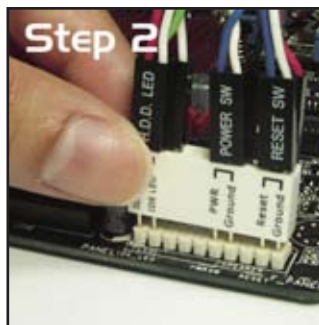
ASUS Q-Connector (システムパネル)

ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

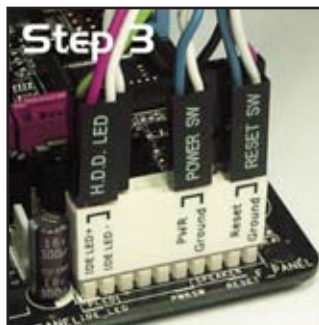
1. フロントパネルケーブルをASUS Q-Connector に接続します。
向きはQ-Connector 上にある表示を参考にし、フロントパネルケーブルの表示と一致するように接続してください。



2. ASUS Q-Connector をシステムパネルコネクタに取り付けます。マザーボードの表示と一致するように取り付けてください。



3. フロントパネル機能が有効になりました。右は Q-connector を取り付けた写真です。



電源をオンにする手順から、音声による
POSTメッセージ、電源をオフにする手順

電源をオンにする

3

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2

3.1 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニタ
 - b. 外部のSCSIデバイス(ディジーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニタが“グリーン”規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニタのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンプ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。
7. 7. 電源をオンにした時に、<Delete>キーを押してBIOS設定に入ります。Chapter 4 の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する

Windows® 2000をご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」をクリックします。
2. シャットダウンオプションボタンが選択されていることを確認し、OKボタンをクリックしてコンピュータをシャットダウンします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置はオフになります。

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

Windows® Vista ご利用の場合：

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. Windows® がシャットダウンした後、電源装置もオフになります。

3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
(詳細：ページ4-29「4.5 電源メニュー」参照)

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法と BIOS パラメータの詳細

4 BIOS セットアップ

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.2	BIOS 設定プログラム.....	4-10
4.3	メインメニュー	4-14
4.4	拡張メニュー	4-19
4.5	電源メニュー	4-29
4.6	ブートメニュー	4-34
4.7	ツールメニュー.....	4-39
4.8	終了メニュー	4-40

4.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. ASUS Update (Windows® 環境でBIOSを更新)
2. ASUS EZ Flash 2 (DOS環境でBIOSを更新。フロッピーディスク/USB フラッシュディスク、マザーボードサポート CD を使用)
3. Award BIOS Flash Utility (フロッピーディスク/ USB フラッシュディスク、CD ROM を使用して、BIOS を更新)
4. ASUS CrashFree BIOS 3 (BIOSファイルのエラー発生時や破損時に、ブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスクまたはサポートCDを使用して、BIOSを更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク にコピーしてください。ASUS Update または Award BIOS Flash を使用して、BIOS のコピーを行います。

4.1.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- ・ インターネットから直接 BIOS を更新する
- ・ BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポートCD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポートCDをセットします。ドライバメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「Install ASUS Update VX.XX.XX」をクリックします。
(詳細ページ5-3参照)
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

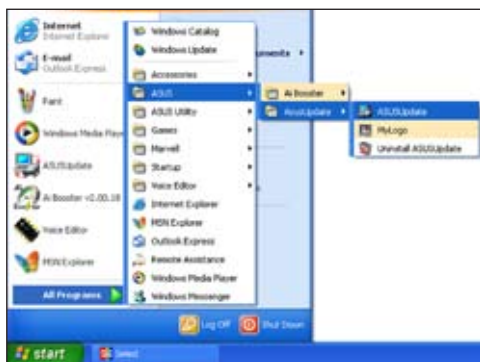


このユーティリティを使用してBIOSを更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。



3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



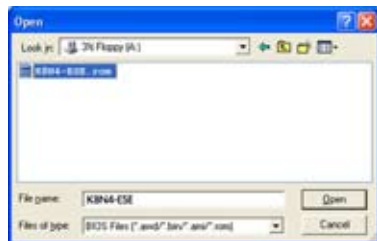
BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。



3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



4.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、**format A:/S**を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。
3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションから、「MS-DOSの起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

Windows® 2000 環境

Windows® 2000での起動ディスクの作成手順

- a. フォーマット済みの 1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
- b. Windows® 2000 のインストールCD を光学ドライブに挿入します。
- c. 「スタート」をクリックし、「Run」を選択します。
- d. オープンフィールドで、

D:\bootdisk\makeboot a:

と入力します。「D」は光学ドライブです。ご使用の環境によって異なります。

- e. <Enter>を押し、スクリーンの指示に従います。

2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

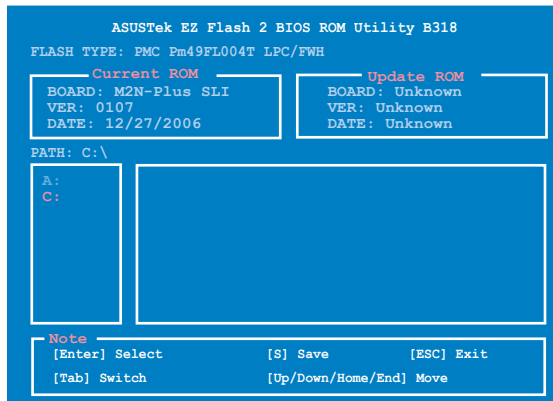
4.1.3 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。EZ Flash ユーティリティは内蔵の BIOS チップです。システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すとEZ Flash 2 を起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USB フラッシュディスクに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USB フラッシュディスクをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。
<Tab> を使ってドライブを変更し <Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が自動的に BIOS をアップデートし、システムが再起動されます。



- FAT 32/16/12 フォーマットの USB フラッシュディスク、ハードディスク、フロッピーディスクのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムをオフにしたり、リセットしたりしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.1.4 BIOSを更新する

AwardBIOS Flash を使用して BIOS ファイルを更新する

1. ASUS Web サイト(www.asus.co.jp) から最新のBIOS ファイルをダウンロードしてください。ファイル名を「M2NPLUSLI.BIN」に変更し、ブートフロッピーディスク、CD ROM、USB フラッシュディスクに FAT 16/12 フォーマットで保存します。



間違った BIOS ファイルをインストールしないように、フロッピーディスクには、更新用の BIOS ファイルのみを保存してください。

2. AwardBIOS Flash Utility (awdfash.exe) をコピーします。サポート CD の「Software folder」から 最新の BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク、CD ROM、USB フラッシュディスクに、コピーしてください。
3. 4.1.2で作成したブートフロッピーディスク、CD ROM、USB フラッシュディスクから DOS モードでシステムを起動してください。
4. DOS モードで、<X:> (X はディスクに割り当てたドライブレターです)を使ってBIOS ファイルと AwardBIOS Flash を保存したフロッピーディスク、CD ROM、USB フラッシュディスクのフォルダに入れかえてください。
5. プロンプトで「awdfash」とタイプし<Enter>を押すと、Award BIOS Flash Utility 画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI          DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 

Message: Please input File Name!
```

6. 「File Name to Program」に BIOS ファイル名を入力して<Enter>を押してください。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI          DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: M2NPLUSV.bin

Message: Do You Want To Save Bios (Y/N)
```

7. BIOS ファイルを保存する、という内容の指示が出たら、<N>を押すと、次の画面が表示されます。
8. ファイルが確認されると、BIOS の更新が始まります。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI          DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: M2NPLUSV.bin

Programming Flash Memory - OFE00 OK

Write OK   No Update   Write Fail

Warning: Don't Turn Off Power Or Reset System!
```



更新中にシステムをオフにしたり、リセットしたりしないでください。

9. 「Flashing Complete」というメッセージが表示されます。これは BIOS の更新が完了したことを示します。フロッピーディスクを取り出し、<F1>を押してシステムを再起動します。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI          DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: M2NPLUSV.bin

Flashing Complete
Press <F1> to Continue

Write OK   No Update   Write Fail

F1 Reset
```

4.1.5 オリジナルの BIOS ファイルを保存する

AwardBIOS Flash を使ってオリジナルの BIOS を保存することができます。BIOS 更新時に障害を起こしたり破損したりしたときの、BIOS ファイルの復旧に使用します



フロッピーディスク、CD ROM、USB フラッシュディスクに、BIOS ファイルの保存するための十分な空き容量があることを確認してください。

AwardBIOS Flash を使ってオリジナルの BIOS を保存する

1. 前セクションのステップ1から6の手順を行ってください。
2. オリジナルの BIOS ファイルを保存するように指示が出たら<Y>を押すと、次の画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI      DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0112.bin
Save current BIOS as:

Message:
```

3. 「Save current BIOS as:」に BIOS ファイルのファイル名を入力して<Enter>します。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI      DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0112.bin
Checksum: 810DH
Save current BIOS as: 0113.bin

Message: Please Wait!
```

4. BIOS ファイルがフロッピーディスクに保存され、BIOS 更新プロセスに戻ります。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.14
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For NF590-SLI-M2N-PLUS SLI      DATE:03/30/2006
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0113.bin
Now Backup System BIOS to
File!

Message: Please Wait!
```

4.1.6 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 はBIOSの自動復旧ツールで、BIOS更新時に障害を起こしたり破損したりした BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルはサポートCD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク、USBフラッシュディスクで更新することができます。



このユーティリティを使用する前に、サポートCDまたは BIOS を保存したフロッピーディスク、USB フラッシュディスクをお手元にご用意ください。

サポート CD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、CD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
Found CDRom, try to Boot from it... Pass
```

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。

USB フラッシュディスクからBIOSを復旧する

手順

1. BIOS ファイルを保存した USB フラッシュディスクを USB ポートにセットします。
2. システムをオンにします。
3. USB フラッシュディスクの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。検出されると BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



- ASUS CrashFree BIOS 3 は FAT 32/16/12 フォーマットでシングルパーティションの USB フラッシュディスクのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
- BIOS を更新している間に、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Low-Pin Count (LPC) チップを搭載しており、「4.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新を行うことが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または“Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更したりすることができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのLPCチップにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

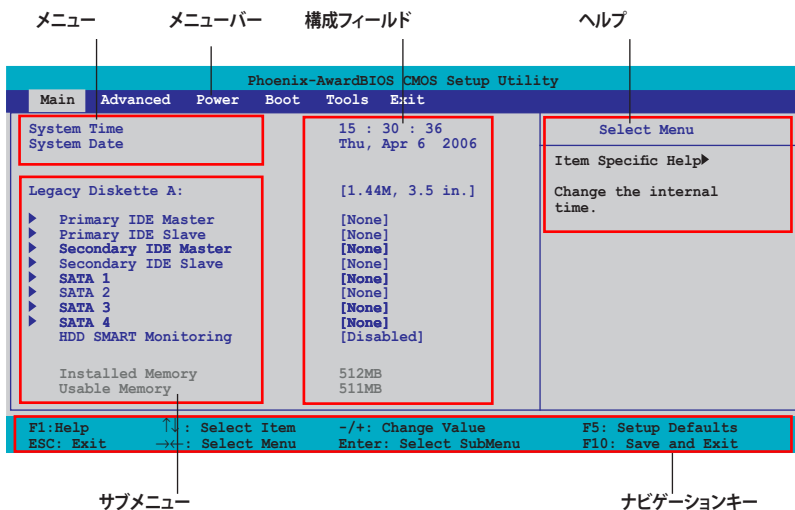
POSTの終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから設定を選択したりすることができます。



- このマザーボードの BIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下の「Load default Setting」を選択します。(詳細は「4.8 終了メニュー」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

4.2.1 BIOSメニュー画面



4.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	特別な機能の設定オプション用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。



- 本章に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS は ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) からダウンロードしてください。

4.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

ナビゲーションキー	機能
<F1>	ヘルプ画面を表示
<F5>	セットアップ初期設定値をロード
<Esc>	BIOS セットアップを終了またはサブメニューからメインメニューに戻る
左右矢印キー	左右に移動して項目を選択
上下矢印キー	フィールド内のハイライト表示を上下に移動
Page Down /<->	ハイライト表示された項目の値を変更
Page Up /<+>	ハイライト表示された項目の値を変更
<Enter>	ハイライト表示させた項目を選択決定
<F10>	変更を保存して退出

4.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。

4.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

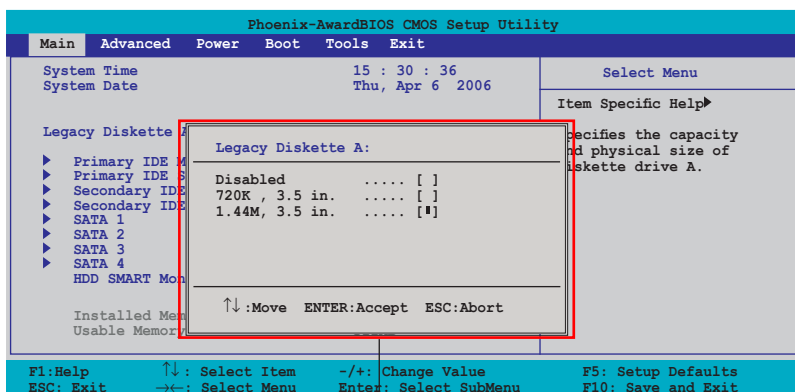
4.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が不可能でない項目は、選択することができません。

各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「4.2.7 ポップアップウィンドウ」をご覧ください。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。



ポップアップウィンドウ

4.2.8 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「4.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main	Advanced	Power	Boot Tools Exit
System Time		15 : 30 : 36	
System Date		Thu, Apr 6 2006	
Legacy Diskette A:		[1.44M, 3.5 in.]	
▶ Primary IDE Master		[None]	
▶ Primary IDE Slave		[None]	
▶ Secondary IDE Master		[None]	
▶ Secondary IDE Slave		[None]	
▶ SATA 1		[None]	
▶ SATA 2		[None]	
▶ SATA 3		[None]	
▶ SATA 4		[None]	
HDD SMART Monitoring		[Disabled]	
Installed Memory		512MB	
Usable Memory		511MB	
Select Menu			
Item Specific Help▶			
Change the internal time.			
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

4.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。
設定オプション: [Disabled] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

4.3.4 Primary/Secondary IDE Master/Slave

BIOSは接続された IDE デバイスを自動的に検出します。「Device」を選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main			
Primary IDE Master		Select Menu	
Primary IDE Master	[Auto]	Item Specific Help▶▶	
Access Mode	[Auto]	Press [Enter] to select.	
Capacity	0 GB		
Cylinder	0		
Head	0		
Sector	0		
PIO Mode	[Auto]		
UDMA Mode	[Auto]		
Transfer Mode	None		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Sector、Transfer Modeの値を自動的に検出します。これらの項目の値をユーザーが変更することはできません。また、システムにIDEデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Primary/Secondary IDE Master/Slave [Auto]


HDDが前のシステムで既にフォーマットしてある場合は、間違った値を表示することがあります。その場合は [Manual] に設定し、IDE HDD の値を手動で入力してください。ドライブを取り付けていない場合は、[None] を選択します。

設定オプション: [None] [Auto] [Manual]

Access Mode [Auto]

初期設定の[Auto] で、IDE HDD を自動的に検出します。「IDE Primary Master/Slave」の項目を [Manual] に設定した場合は、この項目を[CHS] に設定します。

設定オプション: [CHS] [LBA] [Large] [Auto]



HDD の設定を行う前にドライブのメーカーから、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがHDDの認識を誤る場合があります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示。設定不可。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示。設定不可。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示。設定不可。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示。設定不可。

PIO Mode [Auto]

IDE デバイス用のPIOモードを選択します。

設定オプション： [Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

UDMA Mode [Auto]

UDMA モードを選択します。

設定オプション： [Disable] [Auto]

Transfer Mode

転送モードを表示。設定不可。



BIOSでIDE HDD情報を入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切ったり新しいIDE HDDをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE HDDのパーティションの設定を必ず行ってください。

4.3.5 SATA1~4

セットアップ中に BIOS は自動的に Serial ATA デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと SATA デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main			
SATA 1		Select Menu	
Extended IDE Drive	[Auto]	Item Specific Help▶▶ Selects the type of fixed disk connected to the system.	
Access Mode	[Auto]		
Capacity	0 MB		
Cylinder	0		
Head	0		
Landing Zone	0		
Sector	0		
F1:Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults			
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit			

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Landing Zone、Sector の値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに SATA デバイスが接続されていない場合は 0 と表示されます。

Extended IDE Drive [Auto]

システムに接続されたハードドライブのタイプを選択。

設定オプション: [None] [Auto]

Access Mode [Auto]

セクタを設定します。

設定オプション: [Large] [Auto]



HDD の設定を行う前にドライブのメーカーから、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがHDDの認識を誤る場合があります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示。設定不可。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示。設定不可。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示。設定不可。

Landing Zone

トラックごとのランディングゾーンの数を表示。設定不可。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示。設定不可。



BIOSでIDE HDD 情報を入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切ったり新しいIDE HDDをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE HDDのパーティションの設定を必ず行ってください。

4.3.6 HDD SMART Monitoring [Disabled]

ハードディスクの SMART (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能の設定。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.7 Installed Memory [xxx MB]

メモリの容量を表示。

4.3.8 Usable Memory [XXX MB]

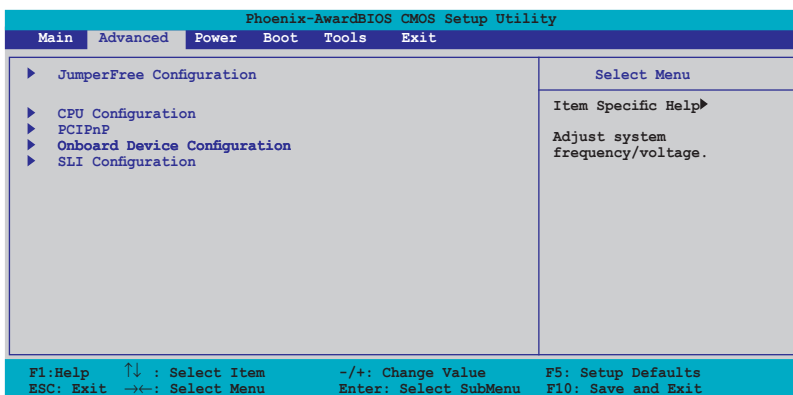
使用可能なメモリサイズの表示。

4.4 拡張メニュー

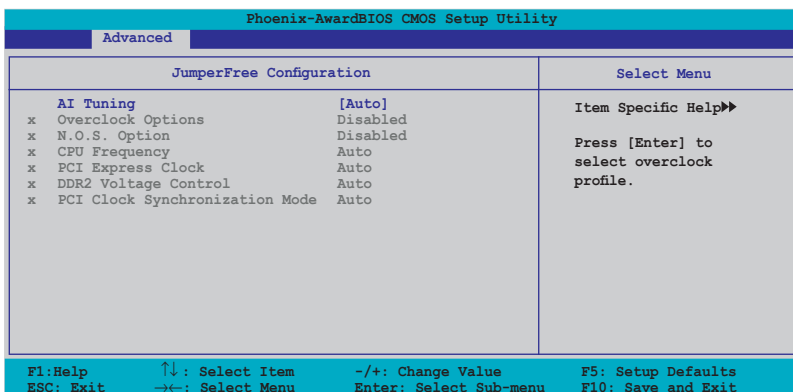
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



4.4.1 JumperFree Configuration



AI Tuning [Auto]

CPU オーバークロックオプションを選択して、CPU 内部周波数を設定することができます。

Manual	オーバークロックの値を手動で設定します。
Auto	システムに対して最適な設定をロードします。
Standard	システムに対して標準的な設定にします。
AI Overclock	オーバークロック中にシステムを安定させる最適な値に設定します。



次の項目は、「AI Tuning」の項目が [AI Overclock] に設定されている時のみ設定可能です。

Overclock Options [Disabled]

オーバークロックオプションを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Overclock 3%] [Overclock 5%] [Overclock 8%]
[Overclock 10%]



次の項目は、「AI Tuning」の項目が [Manual] に設定されている時のみ設定可能です。

CPU Frequency [XXX] (値は自動的に検出されます)

クロック発振器よりシステムバスとPCIバスに送られた周波数です。BIOSが値を自動検出します。値は、200 から 400です。



周波数を高く設定しすぎると、システムが不安定になる場合があります。不安定になった場合は初期設定に戻してください。

PCI Express Clock [100Mhz]

PCI Express クロックを設定します。

設定オプション: [100MHz]~[145MHz]

DDR2 Voltage [Auto]

DDR2 メモリの電圧を設定します。

設定オプション: [Auto] [1.80V] [1.85V] [1.90V] [1.95V]

PCI Clock Synchronization Mode [Auto]

PCI Clock Synchronization Mode を設定します。

設定オプション: [Auto] [To CPU] [33.33MHz]

4.4.2 CPU 設定

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
CPU Configuration		Select Menu	
CPU Type	AMD Sempron(tm) Processor 3000+		Item Specific Help▶▶
CPU Speed	1600 MHz		DRAM timing and control.
Cache RAM	256K		
▶ DRAM Configuration			
Hyper Transport Frequency	[Auto]		
AMD Live!	[Disabled]		
AMD Cool 'n' Quiet Function	[Disabled]		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu	F10: Save and Exit

DRAM 設定

サブメニューには、BIOSが自動検出したDRAM 関連情報が表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
DRAM Configuration		Select Menu	
▶ Memory Clock Frequency	[Auto]	Item Specific Help▶▶▶ Setting platform Memclock or limit value.	
▶ DRAM Timing Control			
Tcl	[Auto]		
Trcd	[Auto]		
Trp	[Auto]		
Tras	[Auto]		
Trc	[Auto]		
Twr	[Auto]		
Trrd	[Auto]		
Trwt	[Auto]		
Twtr	[Auto]		
Trtp	[Auto]		
Twrrd	[Auto]		
Twrrw	[Auto]		
Trdrd	[Auto]		
Trfc	[Auto]		
1T/2T Memory Timing	[Auto]		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu	F10: Save and Exit

Memory Clock Frequency [Auto]

メモリのクロック周波数を設定します。

設定オプション: [Auto] [DDR2 400] [DDR2 533] [DDR2 667][DDR2 800]

DRAM Timing Control

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
DRAM Timing Control		Select Menu	
Load Fail-Safe Defaults		Item Specific Help▶▶▶	
Precomp	0	▶	
Landing Zone	0		
Precomp	0		
Landing Zone	0		
Precomp	0		
Landing Zone	0		
Precomp	0		
Landing Zone	0		
USB Keyboard Support	[Disabled]		
USB Mouse Support	[Disabled]		
Precomp	0	▶	
x Power On By Button	Enabeld		
Onboard FDC controller	[Enabled]		
CKE Fine Delay	[Auto]		
CKE Setup Time	[Auto]		
CS/ODT Fine Delay	[Auto]		
F1: Help		F5: Setup Defaults	
ESC: Exit		F10: Save and Exit	
↑↓: Select Item		-/+ : Change Value	
→←: Select Menu		Enter: Select Sub-menu	

Load Fail-Safe Defaults

設定オプション: [YES] [NO]

USB Keyboard Support [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

USB Mouse Support [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard FDC Controller [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

CKE Fine Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [No delay] [1/64 MEMCLK delay] [2/64 MEMCLK delay] [3/64 MEMCLK delay] [4/64 MEMCLK delay] [5/64 MEMCLK delay]~[30/64 MEMCLK delay] [31/64 MEMCLK delay]

CKE Setup Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1/2 MEMCLK] [1 MEMCLK]

CS/ODT Fine Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [No delay] [1/64 MEMCLK delay] [2/64 MEMCLK delay] [3/64 MEMCLK delay] [4/64 MEMCLK delay] [5/64 MEMCLK delay]~[30/64 MEMCLK delay] [31/64 MEMCLK delay]

CS/ODT Setup Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1/2 MEMCLK] [1 MEMCLK]

Address/Command Fine Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [No delay] [1/64 MEMCLK delay] [2/64 MEMCLK delay] [3/64 MEMCLK delay] [4/64 MEMCLK delay] [5/64 MEMCLK delay]~[30/64 MEMCLK delay] [31/64 MEMCLK delay]

Address/Command Setup Time [Auto]

設定オプション: [Auto] [1/2 MEMCLK] [1 MEMCLK]

Tcl [Auto]

設定オプション: [Auto] [3] [4] [5] [6]

Trcd [Auto]

設定オプション: [Auto] [3] [4] [5] [6]

Trp [Auto]

設定オプション: [Auto] [3] [4] [5] [6]

Tras [Auto]

設定オプション: [Auto] [5] [6] [7]~[18]

Trc [Auto]

設定オプション: [Auto] [11] [12] [13]~[25] [26]

Twr [Auto]

設定オプション: [Auto] [3] [4] [5] [6]

Trrd [Auto]

設定オプション: [Auto] [2] [3] [4] [5]

Trwt [Auto]

設定オプション: [Auto] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9]

Twtr [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3]

Trtp [Auto]

設定オプション: [Auto] [2/4] [3/5]

Twrrd [Auto]

設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3]

Twrrwr [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3]

Trdrd [Auto]

設定オプション: [Auto] [2] [3] [4] [5]

Trfc [Auto]

設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3]

1T/2T Memory Timing [Auto]

メモリアイミングを設定します。設定オプション: [Auto] [1T] [2T]

Hyper Transport Frequency [Auto]

設定オプション: [1x] [2x] [3x] [4x] [5x] [Auto]

AMD Live! [Disabled]

AMD Live! を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AMD Cool ‘n’ Quiet Function [Disabled]

AMD Cool ‘n’ Quiet を設定します。
設定オプション:[Auto] [Disabled]

4.4.3 PCIPnP

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
PCIPnP		Select Menu
Plug & Play O/S	[No]	Item Specific Help▶▶
Primary Display Adapter	[PCI]	Select Yes if you are using a Plug and Play capable operating system. Select No if you need the BIOS to configure non-boot devices.

Plug & Play O/S [No]

この項目を[No]に設定すると、BIOS はマザーボードに接続されたデバイスの設定を行います。Plug and Play OSをインストールした状態で [Yes] に設定すると、OSは Plug and Play デバイスは起動に不要と設定します。
設定オプション: [No] [Yes]

Primary Display Adapter [PCI]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックスコントローラを設定します。
設定オプション: [PCI] [PCI-E]

4.4.4 オンボードデバイス設定構成

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
Onboard Device Configuration			Select Menu
▶ IDE Function Setup			Item Specific Help▶▶
▶ NVRAID Configuration			
▶ USB Configuration			
Onboard nVidia LAN	[Enabled]		
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]		
Onboard USB Audio	[Enabled]		
ASUS ASAP	[Disabled]		
Onboard 1394	[Enabled]		
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]		
Parallel Port Address	[378/IRQ7]		
Parallel Port Mode	[EPP]		
x ECP Mode Use DMA	3		
			Press [Enter] to set.
F1: Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu	F10: Save and Exit

IDE Function Setup

サブメニューは IDE 機能の関連項目です。項目を選択し<Enter> を押して設定します。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
IDE Function Setup		Select Menu	
OnChip IDE Channel0	[Enabled]	Item Specific Help▶▶▶ Disable/Enable Onchip IDE Channel0	
OnChip IDE Channel1	[Enabled]		
IDE DMA transfer access	[Enabled]		
SATA Port 1,2	[Enabled]		
SATA DMA transfer	[Enabled]		
SATA Port 3,4	[Enabled]		
SATA2 DMA transfer	[Enabled]		
IDE Prefetch Mode	[Enabled]		
F1:Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults		ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select Sub-menu F10: Save and Exit	

OnChip IDE Channel0 [Enabled]

Onchip IDE Channel 0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

OnChip IDE Channel1 [Enabled]

OnChip IDE Channel1 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IDE DMA transfer access [Enabled]

IDE DMA transfer access を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA Port 1, 2 [Enabled]

OnChip SATA(Port 1、Port 2) を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA DMA transfer [Enabled]

SATA DMA tranfer のサポートの切り替えを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA Port 3, 4 [Enabled]

OnChip SATA2(Port 3、Port 4) を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA2 DMA transfer [Enabled]

SATA2 DMA tranfer のサポートの切り替えを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IDE Prefetch Mode [Enabled]

IDE PIO Prefetch Mode を設定します。有効にした場合、16bit または 32bit のどちらか一方がIDE バスで使用できます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

NVRAID Configuration

サブメニューの項目からRAID 機能がセットアップできます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
NVRAID Configuration		Select Menu
RAID Enable	[Disabled]	Item Specific Help▶▶
x SATA 1 RAID	Disabled	Disable.Enable nVIDIA
x SATA 2 RAID	Disabled	RAID feture.
x SATA 3 RAID	Disabled	
x SATA 4 RAID	Disabled	

RAID Enable [Disabled]

nVIDIA RAID 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



以下の項目は「RAID Enable」の項目が [Enabled] に設定されている場合のみ、ユーザー設定が可能です。

SATA 1 RAID [Disabled]

SATA 1 ドライブの RAID 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA 2 RAID [Disabled]

SATA 2 ドライブの RAID 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA 3 RAID [Disabled]

SATA 3 ドライブの RAID 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA 4 RAID [Disabled]

SATA 4 ドライブの RAID 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 設定

USB関連機能の変更をすることができます。項目を選択し<Enter>を押して設定オプションを表示させてください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
USB Configuration		Select Menu
USB Controller	[Enabled]	Item Specific Help▶▶ Enable or Disable USB 1.1 and 2.0 Controller.
USB2.0 Controller	[Enabled]	
USB Legacy support	[Enabled]	

USB Controller [Enabled]

オンチップ USB コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



「USB Controller」を [Disabled] に設定すると、「USB 2.0 Controller」と「USB Legacy」サポートの両方が無効になります。

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



USB 2.0 コントローラを [Disabled] に設定すると、オーディオ機能が無効になります。

USB Legacy Support [Enabled]

レガシーOS環境での USB デバイスのサポートを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard nVidia LAN [Enabled]

オンボード NVIDIA® LAN インターフェースを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボード LAN boot ROM を設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard USB Audio [Enabled]

オンボード USB オーディオを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

ASUS ASAP [Disabled]

Windows® Vista ReadyBoost™ 機能に対応する ASUS ASAP 機能で使用する オンボード USB フラッシュモジュールを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard 1394 [Enabled]

オンボード 1394 デバイスのサポートを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを選択します。

設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3][Auto]

Parallel Port Address [378/IRQ7]

Parallel Port ベースアドレスを選択します。

設定オプション: [Disabled] [378/IRQ7] [278/IRQ5] [3BC/IRQ7]

Parallel Port Mode [EPP]

Parallel Port モードを選択します。

設定オプション: [Normal] [EPP] [ECP] [Bi-Directional]



「ECP Mode Use DMA」の項目は、「Parallel Port Mode」の項目が [ECP] または [Bi-Directional] に設定されている時にユーザー設定可能になります。

ECP Mode Use DMA [3]

ECP Mode を設定します。

設定オプション: [1] [3]

4.4.5 SLI Configuration

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
SLI Configuration		Select Menu	
AI-Selector [Auto]		Item Specific Help▶▶▶	
		Allow you to select the Scalable Link Interface mode. When set to Auto, BIOS detects the setting of SLI EZ Selector Card. Set to Normal when using single PCI-E graphics card plugged.	
F1: Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu	F10: Save and Exit

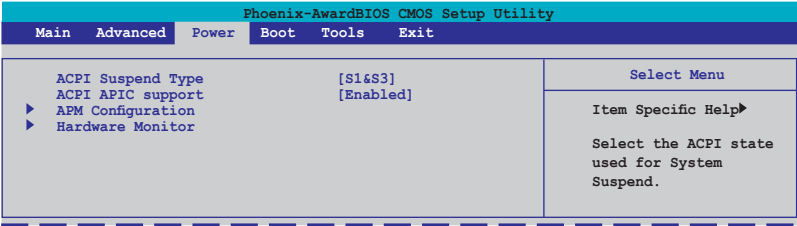
AI-Selector[Auto]

SLI モードの設定をします。[Auto]に設定すると、BIOSはSLI EZ Selector Card の設定を検出します。PCI-E ビデオカードを 1 枚使用しているときは、この項目を[Single Video Card]に設定します。

設定オプション: [Auto] [Single Video Card] [Dual Video Card]

4.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



4.5.1 ACPI Suspend Type [S1&S3]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。
設定オプション: [S1(POS)] [S3(STR)] [S1&S3]

4.5.2 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかの切り替を行います。[Enabled]にすると、ACPI APICの表のポインターがRSDT ポインターリストに含まれます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.5.3 APM の設定

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility				
Power				
APM Configuration			Select Menu	
Restore on AC Power Loss			[Power-Off]	
PWR Button < 4 secs			[Instant-Off]	
Power Up On PCI/PCIE Devices			[Disabled]	
Power On By External Modems			[Disabled]	
Power On by RTC Alarm			[Disabled]	
x	Date(of Month) Alarm	0	Item Specific Help▶▶ Press [Enter] to select whether or not to restart the system after AC power loss.	
x	Alarm Time (hh:mm:ss)	0 : 0 : 0		
HPET Support				[Enabled]
Power Up By PS/2 Mouse				[Disabled]
Power Up By PS/2 Keyboard				[Disabled]
F1:Help				F5: Setup Defaults
ESC: Exit				F10: Save and Exit
↑↓: Select Item			-/+ : Change Value	
→←: Select Menu			Enter: Select SubMenu	

Restore on AC Power Loss [Power-Off]

Restore on AC Power Loss を設定します。
設定オプション: [Power-Off] [Power-On]

PWR Button < 4 secs [Instant-Off]

4 秒以上電源ボタンを押した後のイベントを設定します。
設定オプション: [Suspend] [Instant-Off]

Power Up On PCI/PCIE Devices [Disabled]

PCI/PCIE デバイスとNV Onboard LANを使用して S5状態から PMEウェークアップする機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定をします。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを形成する RTC の設定をします。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時が設定可能になります。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Date (of Month) Alarm [xx]

アラームの日付けを設定します。この項目をハイライト表示させ、<+> または <-> を押して設定を行います。

設定オプション：(最小=0、最大=31)

Alarm Time (hh:mm:ss) [xx:xx:xx]

アラーム時間の設定をします。<Tab> または <→> / <←> を押してフィールドを選択します。次に、<+> または <-> を押して時間を設定します。

時間(時)：(最小=0、最大=23)、時間(分) / (秒)：(最小=0、最大=59)

HPET Support [Enabled]

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Power Up By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]

Power Up By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション：[Disabled] [Space Bar] [Ctrl-ESC] [Power Key]

4.5.4 ハードウェアモニタ

BIOSで自動的に検出されたハードウェアモニターの値を表示します。また、CPU Q-Fan 機能に関連する項目を変更します。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Hardware Monitor		Select Menu	
x	CPU Q-Fan Control	[Disabled]	Item Specific Help▶▶
	CPU Q-Fan Profile	Performance	
x	Chassis Q-Fan Control	[Disabled]	Press [Enter] to enable or disable.
	Chassis Q-Fan Profile	Performance	
	Vcore Voltage	[1.39V]	
	3.3V Voltage	[2.76V]	
	5V Voltage	[4.48V]	
	12V Voltage	[11.32V]	
	CPU Temperature	30°C	
	M/B Temperature	33°C	
	CPU FAN Speed	2884 RPM	
	CHASSIS FAN Speed	0 RPM	
	POWER FAN Speed	0 RPM	
	CPU Fan Speed warning	[800 RPM]	
F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults			
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit			

CPU Q-Fan Control [Disabled]

CPU Q-Fan コントローラを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



「CPU Q-Fan Profile」の項目は「CPU Q-Fan Control」の項目を [Enabled] に設定した場合のみ表示されます。

CPU Q-Fan Profile [Performance]

CPU ファンパフォーマンスを設定します。[Optimal] に設定すると、CPU ファンをCPU 温度に合わせて自動的に調節します。[Silent] に設定すると、ファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。[Performance] に設定するとCPU ファン速度は最大になります。
設定オプション: [Performance] [Optimal] [Silent]

Chassis Q-Fan Control [Disabled]

Chassis Q-Fan コントローラを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次項の項目は「Chassis Q-Fan Control」の項目を [Enabled] に設定した場合のみユーザー設定可能になります。

Chassis Q-Fan Profile [Performance]

ケースファンパフォーマンスを設定します。[Optimal] に設定すると、ケースファンをケース温度に合わせて自動的に調節します。[Silent] に設定すると、ファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。[Performance] に設定するとケースファン速度は最大になります。

設定オプション: [Performance] [Optimal] [Silent]

Vcore Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

VCORE の電圧を自動的に検出して表示します。表示しない場合は、[Ignored]を選択します。

CPU Temperature, M/B Temperature

マザーボードとCPUの温度を自動的に検出して表示します。この項目は設定不可です。

CPU Fan Speed

CHASSIS FAN Speed

POWER FAN Speed

CPU、ケース、電源のファン速度を自動的に検出して 回転数/分(RPM)の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには 0 と表示されます。これらの項目は設定不可です。

CPU Fan Speed warning [800 RPM]

CPU ファン警告速度を設定します。

設定オプション: [Disabled] [800 RPM] [1200 RPM] [1600 RPM]

4.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。項目を選択し、<Enter> を押してサブメニューを表示します。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility				
Main	Advanced	Power	Boot	Tools Exit
<div>▶ Boot Device Priority</div> <div>▶ Removable Drives</div> <div>▶ Hard Disk Drives</div> <div>▶ CDROM Drives</div> <div>▶ Boot Settings Configuration</div> <div>▶ Security</div>				<div>Select Menu</div> <div>Item Specific Help▶</div> <div>Select Boot Device Priority</div>
F1: Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value		F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu		F10: Save and Exit

4.6.1 ブートデバイスの優先順位

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Boot Device Priority		Select Menu
1st Boot Device	[Removable]	Item Specific Help▶▶ Select Your Boot Device Priority
2nd Boot Device	[Hard Disk]	
3rd Boot Device	[CDROM]	
4th Boot Device	[Disabled]	

1st ~ 4th Boot Device [Removable]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [Removable] [Hard Disk] [CDROM] [Disabled]

4.6.2 Removable Drives

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
Removable Drives	Select Menu
1. Floppy Disks	Item Specific Help▶▶

1. Floppy Disks

システムに取り付けたリムーバブルドライブを割り当てます。

4.6.3 Hard Disk Drives

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
Hard Disk Drives	Select Menu
1. SATA1: XXXXXXXXX	Item Specific Help▶▶

1. SATA1: XXXXXXXXX

システムに取り付けた HDDを割り当てます。

4.6.4 CDROM Drives

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
CDROM Drives	Select Menu
1. 1st Slave: XXXXXXXXX	Item Specific Help▶▶

1. 1st Slave: XXXXXXXXX

システムに取り付けた光学ドライブを割り当てます。

4.6.5 ブート設定

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Boot Settings Configuration		Select Menu
Case Open Warning	[Enabled]	Item Specific Help▶▶ Press [Enter] to enable or disable.
Quick Boot	[Enabled]	
Boot Up Floppy Seek	[Disabled]	
Bootup Num-Lock	[On]	
Typematic Rate Setting	[Disabled]	
x Typematic Rate (Chars/Sec)	6	
x Typematic Delay (Msec)	250	
OS Select For DRAM > 64MB	[Non-OS2]	
Full Screen LOGO	[Enabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select Sub-menu
		F5: Setup Defaults
		F10: Save and Exit

Case Open Warning [Enabled]

ケース開閉検出機能を設定します。2.7.2「内部コネクタ」をご覧ください。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Quick Boot [Enabled]

[Enabled]に設定すると、起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek [Disabled]

立ち上げ時のフロッピーディスクシークを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。

設定オプション: [Off] [On]

Typematic Rate Setting [Disabled]

キー入力レートを設定します。この項目を [Enabled] に設定すると Typematic Rate (Chars/Sec) と Typematic Delay (Msec)を設定することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



「Typematic Rate (Chars/Sec)」と「Typematic Delay (Msec)」は、「Typematic Rate Setting」を[Enabled] に設定した場合のみ ユーザー設定可能になります。

Typematic Rate (Chars/Sec) [6]

1 秒あたりの入力文字数を設定します。

設定オプション: [6] [8] [10] [12] [15] [20] [24] [30]

Typematic Delay (Msec) [250]

2回目の入力として認識するまでの遅延時間を設定します。

設定オプション: [250] [500] [750] [1000]

OS Select for DRAM > 64MB [Non-OS2]

64 KB より大きい RAM で OS/2 を起動する場合は、この項目を [OS2] に設定してください。

設定オプション: [Non-OS2] [OS2]

Full Screen LOGO [Enabled]

Full Screen LOGO を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen LOGO」の項目を [Enabled] に設定してください。

Halt On [All, But Keyboard]

エラーの報告タイプを設定します。

設定オプション: [All Errors] [No Errors] [All, But Keyboard] [All, But Diskette]

[All, But Disk/Key]

4.6.6 セキュリティ

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Security		Select Menu
Supervisor Password	Clear	Item Specific Help▶▶ Supervisor password controls full access, <Enter> to change password.
User Password	Clear	
Password Check	[Setup]	
Security Chip	[Disabled]	

Supervisor Password

User Password

パスワードを設定します。

手順

1. 項目を選択し<Enter>を押します。
2. 8 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。

3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力し <Enter> を押します。パスワードのフィールドが Set に変わります。

パスワードをクリアする

1. パスワードフィールドを選択し<Enter> を2度押すと、下のメッセージが表示されます。



2. 任意のキーを押すと、パスワードフィールドの設定が Clear に変わります。

パスワードに関する注

Supervisor Password は、認可のないアクセスを防ぐために BIOS セットアッププログラムに入る際に要求するパスワードです。User Password は、認可のない使用を防ぐために、システムを起動の際に要求するパスワードです。

パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、CMOS Real Time Clock (RTC) RAM を削除することで、パスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含む RAM データはオンボードボタンセルバッテリーで動作しています。CMOS RAM を消去する場合は「2.6 ジャンプ」をご覧ください。

Password Check

この項目を [Setup] に設定すると、BIOS は BIOS セットアップ画面へのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[System] に設定すると、BIOS はシステムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション: [Setup] [System]

Security Chip [Disabled]

TPM セキュリティチップの設定をします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



「Security Chip」の項目を有効にすると次の項目が表示されます。

Clear TPM Security Chip [Enter]

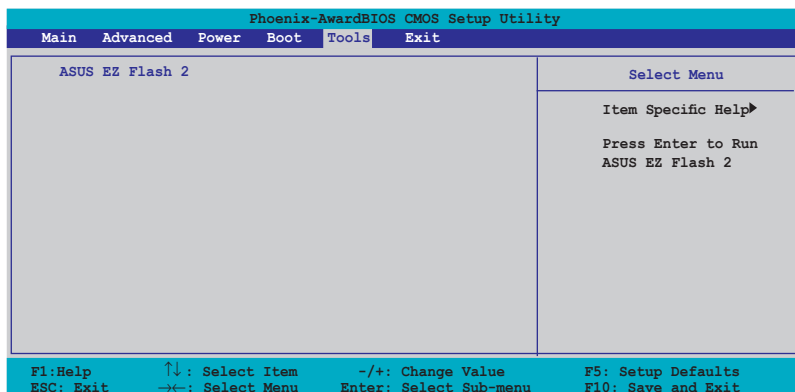
TPM セキュリティチップに保存した情報をクリアすることができます。<Enter> を押すと、セキュリティチップ内のユーザー情報の削除を行うかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。左右矢印キーを使用して [YES] または [NO] を選択し、<Enter> で確定します。



[YES] を選択して Clear TPM Security Chip 機能を実行すると、TPM セキュリティチップに保存されたデータは全て消去され、元に戻すことはできません。

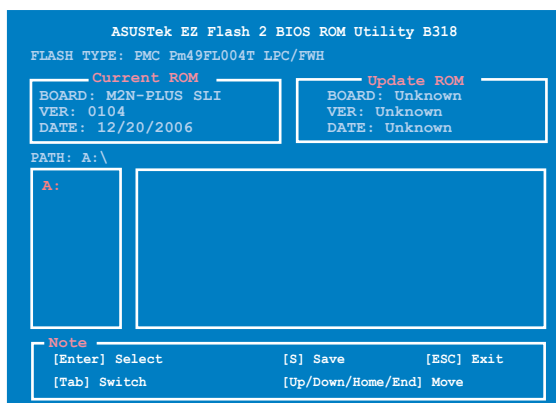
4.7 ツールメニュー

スペシャル機能のオプション設定をします。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。



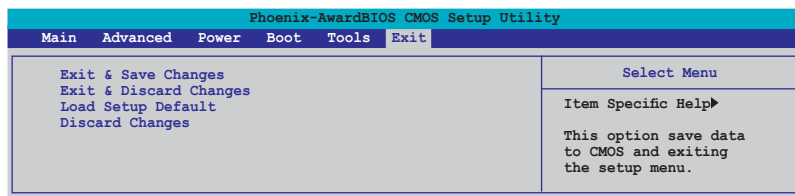
4.7.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [Yes] または [No] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。詳細は 4-5 ページ、セクション 4.1.3 をご覧ください。



4.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、デフォルト値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。このメニューから終了する項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。[Exit & Save Changes]を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

サポートCDのコンテンツ

5 ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポート CD 情報	5-1
5.3	ソフトウェア情報.....	5-9
5.4	Windows® Vista	5-32
5.5	RAID	5-33
5.6	RAID ドライブディスクを作成する.....	5-42

5.1 OSをインストールする

このマザーボードは Windows® 2000/XP/64-bit XP/Vista/64-bit Vista OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 Service Pack 4 または Windows® XP Service Pack 2以降の Service Pack をインストールしてください。

5.2 サポート CD 情報

マザーボードに付属するサポートCDには、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが入っています。



サポートCDの内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS webサイト (www.asus.co.jp)でご確認ください。

5.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートCDとマザーボードの情報を表示できます。

クリックしてインストールします。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

5.2.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll-Installation Wizard for Drivers

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

NVIDIA nForce Chipset Driver

NVIDIA® nForce® 500 SLI チップセット用に NVIDIA® チップセットドライバをインストールします。

C-Media CM6501 Audio Driver

C-Media CM6501 オーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet! ドライバとアプリケーションをインストールします。

ASUS AI Remote

ASUS AI Remote ドライバとアプリケーションをインストールします。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールをします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用するアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS InstAll-Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

ASUS PC Probe II

ファン速度、CPU 温度、システム電圧をモニタし、問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータを常に正常な状態に維持することができます。

ASUS Update

ASUS Web サイトより最新のBIOSがダウンロードできます。



ASUS Update を使用するにはインターネット接続が必要です。

ASUS AI Gear

ASUS AI Gear をインストールします。

ASUS AI Nap

ASUS AI Nap をインストールします。

ASUS AMD Cool 'n' Quiet Utility

AMD® Cool 'n' Quiet! ソフトウェアをインストールします。

ASUS Accelerated Propeller

ASUS Accelerated Propeller (ASAP) をインストールします。



以下のユーティリティは、ASUS Superb Software Library CDからもインストールすることができます。



Adobe Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができるAdobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0cドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0 cコンピュータのグラフィックスとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。更新が必要な場合は Microsoft Web サイト (www.microsoft.com) をご覧ください。

Symantec Norton Internet Security

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。

WinDVD Copy5 Trial

WinDVD Copy5 (お試し版) バージョンをインストールします。

Corel Snapfire Plus SE

Corel Snapfire Plus SEをインストールします。

Skype (TM)

Skype™ アプリケーションをインストールします。

5.2.4 Make Disk menu

NVIDIA® nForce™ 500-SLI SATA RAID ドライバディスクを作成します。



NVIDIA 32/64bit 2000/XP/Vista SATA RAID Driver

32/64-bit 2000/XP/Vista システム用のNVIDIA® Serial ATA RAID ドライバディスクを作成します。

5.2.5 マニュアルメニュー

補足のユーザーマニュアルを見ることができます。



ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDF ファイルを見るには、ASUS Superb Software Library CD から Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールしてください。



5.2.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。



5.2.7 その他の情報

画面右上のアイコン。マザーボード、サポートCDの内容に関する追加情報です。

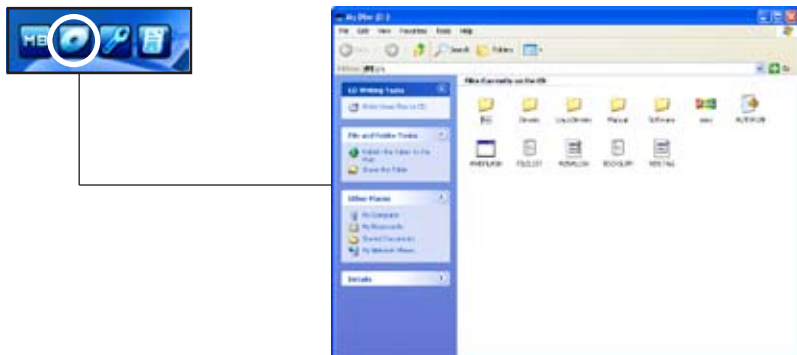
マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示。



CDをブラウズする

サポートCDのコンテンツを表示。(グラフィカル形式)



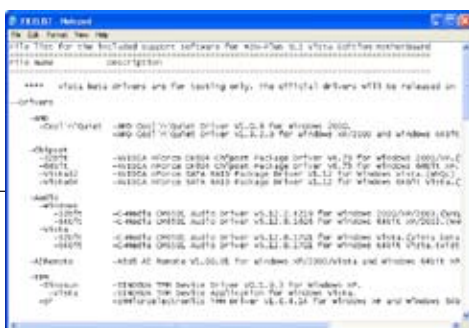
テクニカルサポートフォーム

Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。



ファイルリスト

サポート CD のコンテンツを表示。(テキスト形式)



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio box の値を選択し、画像のサイズを調整します。



9. 画面がASUS Update ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

5.3.2 Cool 'n' Quiet!™ Technology

本製品は、CPU 速度、電圧、電力をCPU のパフォーマンスに合わせて調節する AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology を搭載しています。

Cool 'n' Quiet!™ Technology を使う

手順

1. システムを起動し POST中にを押して BIOS に入ります。
2. Advanced → CPU Configuration → AMD Cool 'n'Quiet Function の順に進みオプションを [Enabled] に設定します。(詳細 4.4「拡張メニュー」参照)
3. 変更を保存し退出します。
4. コンピュータを再起動し、電源オプションの設定を行ってください。

Windows® 2000/XP

1. Windows® 2000/XP OS の場合は、スタートボタン→設定→コントロールパネルの順にクリックします。
2. コントロールパネルはクラシック表示です。
3. 「画面」アイコンをダブルクリックし、「スクリーン セーバ」タブを選択します。
4. 「電源ボタン」をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。
5. 「電源設定」のリストボックスから「最小の電源管理」を選択します。
6. 「OK」をクリックして設定を完了させてください。





- この機能をご使用になる前に、AMD Cool 'n' Quiet!™ ドライバとアプリケーションをインストールしてください。
- AMD Cool 'n' Quiet!™ technology は AMD のヒートシンク、ファン、モニタチップが必要です。
- 対応しないヒートシンク、ファンを使用する場合は、ASUS Q-Fan Technology をご利用ください。

Cool 'n' Quiet!™ を起動する

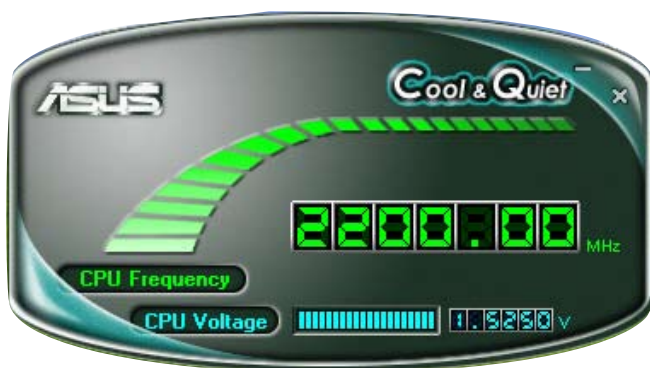
リアルタイムで CPU 周波数や電圧を確認することができる Cool 'n' Quiet!™ は、サポート CD からご利用になれます。



サポート CD から、Cool 'n' Quiet!™ をインストールしてください。
(詳細 5.2.3「ユーティリティメニュー」参照)

Cool 'n' Quiet!™ を起動する

1. Windows® 2000 をご利用の場合は、スタートボタン → すべてのプログラム → ASUS → Cool & Quiet → Cool & Quiet の順にクリックしてください。
2. Windows® XP をご利用の場合は、スタートボタン → すべてのプログラム → ASUS → Cool & Quiet → Cool & Quiet の順にクリックしてください。
3. Cool 'n' Quiet!™ 画面に CPU 周波数と CPU 電圧が表示されます。



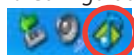
5.3.3 C-Media CM6501 オーディオユーティリティ

C-Media Superior Quality Audio CODECは、C-Media 6501サウンド設定ソフトウェアを通して8チャンネルオーディオを提供し、PCで最高のオーディオをお楽しみいただけます。このソフトウェアは、高品質なオーディオ合成/レンダリング、3D サウンドポジショニング、S/P DIF 出力をサポートしています。

インストールウィザードに従って、サポートCDから C-Media CM6501 Audio Driver をインストールしてください。

C-Media オーディオユーティリティ をインストールすると、タスクバーに CM6501 Sound Configuration アイコンが表示されます。

タスクバーのC-Media アイコンをクリックすると、CM6501 Sound Configuration Main Setting 画面が表示されます。



- セットアップには4チャンネル、6チャンネル、または 8チャンネルスピーカーが必要です。
- C-Media をインストールする前に Microsoft® Windows® 2000/XP/Vista をインストールしてください。

Main Setting

Main Setting 画面のオプションにより、オーディオデバイスの設定と、7.1 Virtual Speaker Shifter の使用が可能になります。

チャンネル設定を選択します。

詳細設定は をクリックします。

S/P DIF 出力を選択するには をクリックします。digital / analog オプションを選択するにはドロップダウンメニューをクリックします。

デジタルボリュームを設定するには をクリックします。各スピーカーのつまみを動かし、ボリュームを設定します。ボリュームをリセットするには をクリックします。

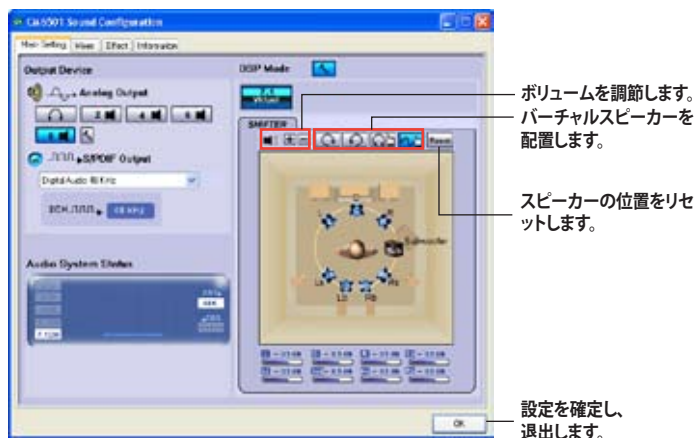
設定を確定し、退出します。

スピーカーテストを開始します。

スピーカーテストを停止します。

7.1 Virtual Speaker Shifter

本機能を有効にするには  をクリックします。



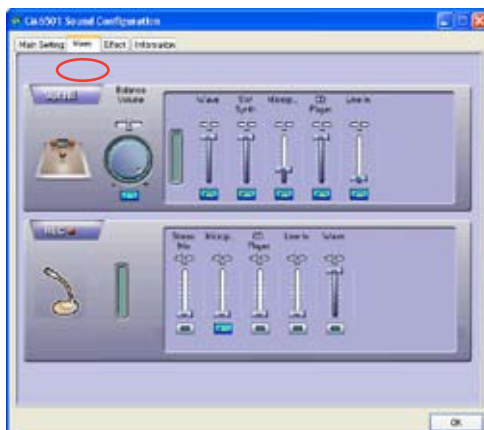
Mixer

Mixer オプションにより、オーディオ出力/入力 (録音) ボリュームが設定できます。

コントロールタブをクリックしてボリュームボタンを回転させ、出力ボリュームを調節します。

Wave、SW Synth、Microphone、CD Player、Line Lin、Stereo Mix を調節するには、コントロールタブをクリックし、つまみを上下にドラッグして希望のボリュームに調節します。

「OK」をクリックし、設定を確定して退出します。

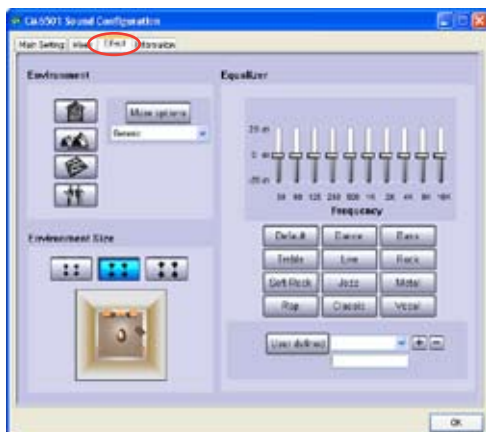


Effect

このオプションにより音楽を聴く環境の設定、Equalizer の調節、あらかじめ設定されたモードの選択が可能になります。

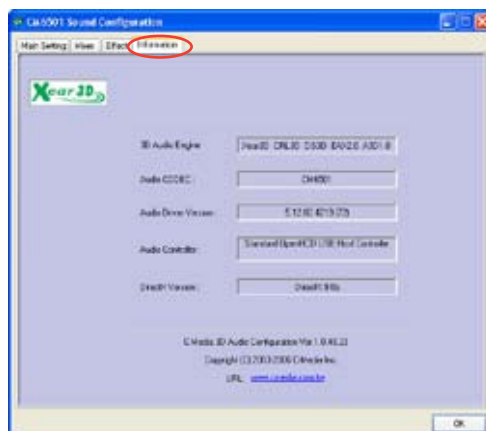
ショートカットボタンまたはドロップダウンメニューをクリックして、音響の設定を調節します。Equalizer を手動で調節でき、また音楽のジャンルに合わせて、あらかじめ設定されたモードを選択することもできます。Environment サイズを選択するには、ショートカットボタンをクリックするだけです。

「OK」をクリックし、設定を確定して退出します。



Information

「Information」タブをクリックし、3D Audio Engine、Audio CODEC、Audio Driver Version、Audio Controller、DirectX Version に関する情報を表示させます。



5.3.4 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントをモニタし、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心にモニタします。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時からモニタを開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。本ユーティリティをサポートするOSについてはページ 1-6 をご覧ください。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポートCD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポート CDASUS PC Probe IIフォルダから setup.exe を探してください。**setup.exe** をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. Utilities タブ→ ASUS PC Probe II の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでもPC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる：スタート → すべてのプログラム → ASUS → PC Probe II → PC Probe II v1.xx.xx の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを開いたり閉じたりすることができます。










PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。

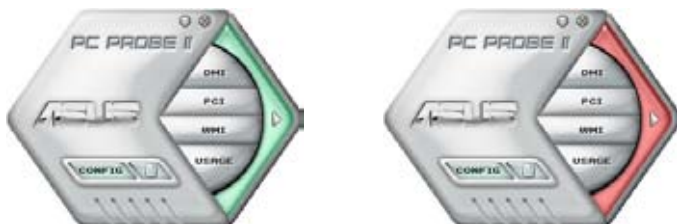


三角をクリックして
Preference を閉じる

ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

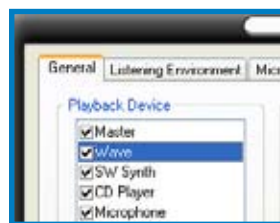
システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニタパネルも赤色になります。「ハードウェアモニタパネル」参照。

Preferences

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニタパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニタパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6 角形 (大)と長方形 (小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニタパネルがデスクトップに表示されます。



6 角形 (大)



長方形 (小)

モニタパネルの位置を変える

モニタパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニタパネルを分解する

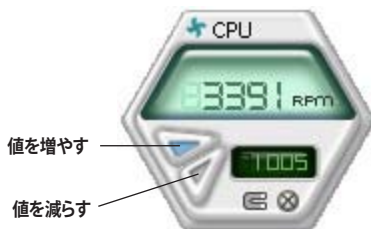
モニタパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形 (小) のモニタパネルでは基準値を調節することはできません。



警告センサーモニタ

コンポーネントの値が基準値を上回ったり、下回ったりすると赤色になります。



六角形 (大)



長方形 (小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。

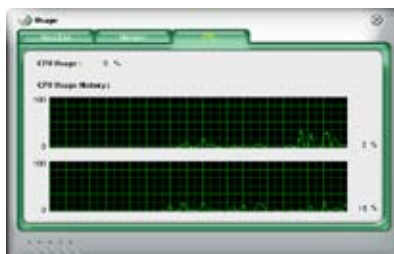


Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**USAGE** をクリックしてUsageを開きます。

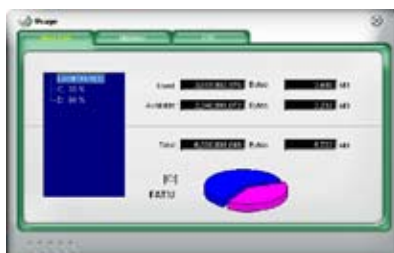
CPU

リアルタイムの CPU 使用率が線グラフで表示されます。CPU の Hyper-Threading 機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。




Memory

物理メモリの使用率を表示します。
円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

 をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

onfig には 2 つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



初期設定値をロード

変更を適用

変更をキャンセル

保存した設定をロード

設定を保存

5.3.5 ASUS AI Gear

ASUS AI Gear の 4 つのパフォーマンスオプションからコンピューティングの必要に応じてパフォーマンス設定を選択することができます。このユーティリティで簡単にプロセッサ周波数、VCore 電圧を調整し、システムノイズや電源消費を最小限に抑えることができます。

付属のサポート CD から AI Gear をインストールしたら、Windows OS タスクバーの AI Gear アイコンをダブルクリックして起動します。

ギアを入れてパフォーマンス設定を選択します。



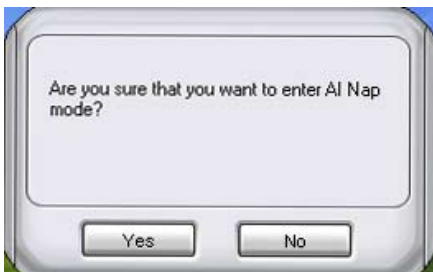
本ユーティリティをサポートしているOSについてはページ1-6をご覧ください。

5.3.6 ASUS AI Nap

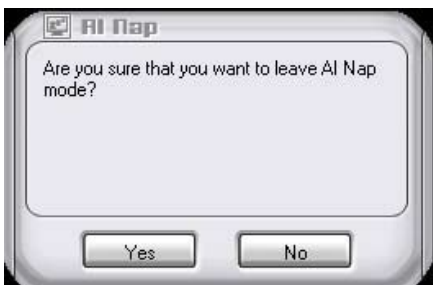
コンピュータを使用していない時の電源消費を最小限に抑えます。

付属のサポート CDからAI Nap をインストールしたら、Windows OS タスクバーの AI Nap アイコンをダブルクリックし、起動します。

確認画面で Yes をクリックしてください。



システム電源またはマウスボタンを押し、確認画面で Yes をクリックして AI Nap モードから退出します。

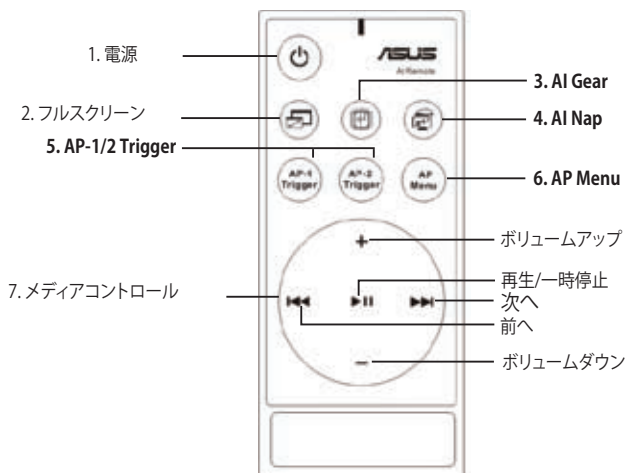


- 電源ボタンの機能を「AI Nap」からシャットダウンに切り替えるには、OS タスクバー上の「AI Nap」アイコンを右クリックし、「Use power button」をクリックしてください。
- 本ユーティリティをサポートしているOSについてはページ1-6をご覧ください。

5.3.7 ASUS AI Remote

ASUS AI Remote を使用すれば、再生や一時停止、音量調節などをリモコンで操作することができます。

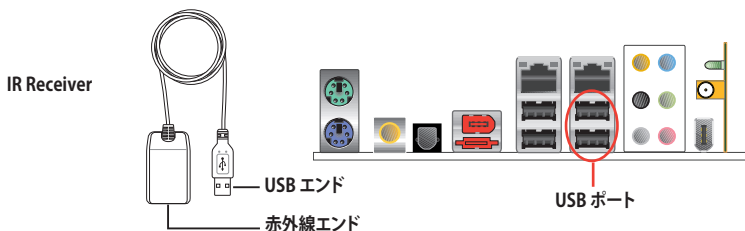
ASUS AI Remote の概要



1. 電源: コンピュータの電源の切り替え
2. フルスクリーン: メディアアプリケーションを全画面表示に
3. AI Gear: モード変更、パフォーマンスと静音効果の調節
4. AI Nap: タスクを終了せずにシステムを待機状態に
5. AP-1/2 Trigger: 予め設定したアプリケーションを起動
6. AP Menu: アプリケーションメニューを表示
7. メディアコントロール: メディアアプリケーションをコントロール

USB IR (赤外線受信機)

本マザーボードには、IR Receiver が付属しています。USB エンドをPC側の LAN2ポートの下にある USB ポートに接続し、IR Receiver 本体を適当な場所に置きます。



- IR 機能が利用できる範囲は環境によっても異なりますが約 6m です。リモコン操作する際は ASUS AI Remote を IR Receiver の方向に向けて操作してください。
- これら 2 つの USB ポートは USB ウェークアップ機能をサポートしています。このため、コンピュータの電源オフ時にこれらのポートから ASUS IR Receiver 等の USB デバイスを取り外すと、PC の電源がオンになります。
- 後部 I/O のレイアウトはマザーボードのモデルにより異なります。
- この機能をサポートしている OS については、ページ 1-6 をご覧ください。

ソフトウェアのインストール

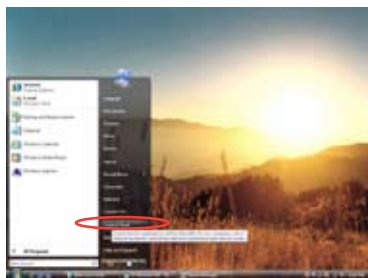
ASUS AI Remote を使用するには、IR Receiver を取り付け後にソフトウェアのインストールが必要です。マザーボードサポート CD 内の Drivers メニューから ASUS AI Remote のファイルを選択してください。



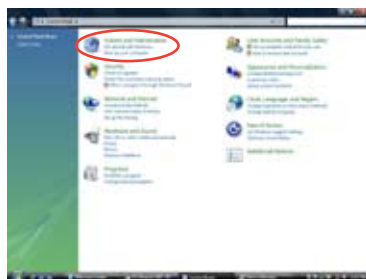
ASUS AI Remote

HID対応デバイスを使用する

OSの制限により、IR Receiver を USBポートから取り外し、他のUSB ポートに接続した場合、IR Receiver は機能しなくなります。HID対応デバイスを再度使用するには、「Device Manager/Power Manager」で「Allow this device to bring the computer out of standby」にチェックを入れます。



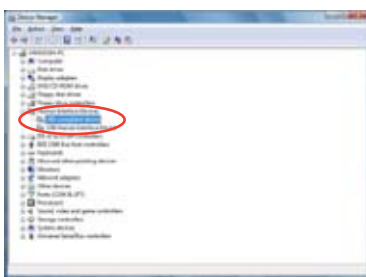
1. 「Windows icon」をクリックし、「Control Panel」をクリック。



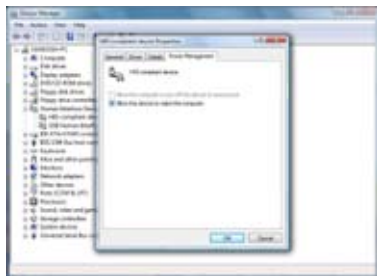
2. 「System and Maintenance」をダブルクリック。



3. 「Device Manager」をクリック。



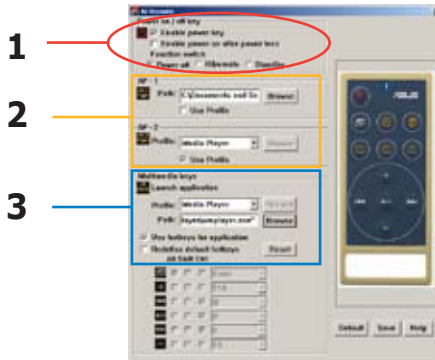
4. 「HID-compliant device」をクリック。



5. 「Allow this device to wake the computer.」のボックスをチェック。

ASUS AI Remote の設定

ASUS AI Remote ソフトウェアをインストールすると、ユーティリティ画面が表示され、各設定が可能になります。以下の手順に沿って各機能キーをユーザー設定してください。



1. Power On / Off Key

Enable power key

電源ボタンを有効にするにはこのボックスをクリックします。

Enable power on after power loss

AC電源が遮断された後にシステムを再起動させるには、このボックスをクリックします。PCの電源コードが電源コンセントから外れた場合や、電源に問題があった場合、PCは自動的に再起動し数秒後にシャットダウンします。その後、電源が回復すれば、AI Remoteの電源オン機能を通常通り利用することができます。

Function switch

モードを「Power off」から「Hibernate」や「Standby」に切り替えることで、「Power key」をカスタマイズできます。この項目を「Hibernate」にすると、PCはWindows S4モードになります。休止状態への移行と休止状態からの復帰が短時間で実行できるようになります。



- 電源ボタンはMS-DOS Modeでは使用できません。
- ASUS AI RemoteでPCの電源/休止状態の切り替え、スタンバイの切り替えを行う際は、「Enable Power Key」のボックスにチェックを入れてください。休止状態とスタンバイについては「www.microsoft.com」をご覧ください。

2. AP-1/2

AP-1 Trigger と AP-2 Trigger ボタン用に、アプリケーションを 2 つ設定することができます。設定後は登録したボタンを押せば、予め設定したアプリケーションが起動します。

- (1) 「Use Profile」の前にあるボックスをクリックすると、初期設定のアプリケーションがドロップダウンメニュー から選択できるようになります。
- (2) 初期設定以外のアプリケーションを起動するには、「Use Profile」の前のボックスからチェックを外してください。
- (3) 「Browse」ボタンをクリックし、AP-1 ボタンで起動するアプリケーションの実行ファイル (.exe) を選択します。
- (4) 「AP-2」ボタンの設定も同様に行います。
- (5) 設定を保存するには「Save」をクリックします。

3. Multimedia Keys

Profile

「Profile」ドロップダウンメニューにはアプリケーションが 9 つ初期設定されています。「User Define」(ユーザー定義)は 5 つまで可能です。



初期設定のアプリケーションは、「Media Player、iTunes、PowerDVD、WinDVD、QuickTime、Real Player、DivX Player、WinAmp、Power Point」です。(ASUS AI Remote ソフトウェア内の初期設定のアプリケーションは予告なく変更されることがあります。ご了承ください)

Path

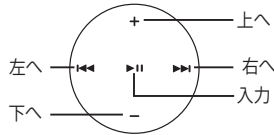
ソフトウェアでこれら 9 つのアプリケーションの実行ファイルを検索することができます。実行ファイルが見つからない場合は、「Browse」をクリックしパスを確認してください。「User Define」のアプリケーションの実行ファイルは、ASUS AI Remote を使用する前に手動で検索する必要があります。




-
- 実行ファイルのパスが指定されたら保存してください。
 - 実行ファイルの場所を変更した場合や、アプリケーションを再インストールした場合は、ファイルのパスを再指定する必要があります。
-

AP メニューボタンとアプリケーションメニュー

メディアコントロールについて



Select Application Profile

リモコンの  (AP Menu) を押すと、アプリケーションのプロファイルが表示されます。リモコンでアプリケーションを選択します。



Select Application Path

ソフトウェアでアプリケーションの実行ファイルが検出されない場合、「Select Application Path」画面が表示されますので、適切なパスを指定してください。




Select File

パスを指定したら、アプリケーションを起動するための実行ファイル(.exe)を選択します。

ソフトウェアで実行ファイルが検出された場合、あるいはすでに設定している場合、アプリケーションを選択するとこの画面が直接表示されます。ファイルやフォルダ、CD-ROMを選択したら、<<</>>>で「Back」/「OK」/「Cancel」を選択し、▶▶を押して確認してください。



- 音楽を聴くには、予めプレイリストを設定することをお勧めします。
- アプリケーションを閉じるには再度  を押します。もう1度押すとプロファイルメニューが再び起動します。

アプリケーション用のホットキーを定義する

ASUS AI Remote ソフトウェアには、9つの代表的なアプリケーションが登録されていますが、ユーザー定義も可能です。リモコンで初期設定以外のアプリケーションを操作するには(ACDSee 等)、ドロップダウンメニューから「User Define」を選択し、「Rename」を選んで名前を変更します。


User Define

「Use Hotkeys for Application」のボックスをクリックすると、ユーザー定義するアプリケーション用のホットキーをカスタマイズすることができます。



ホットキーの定義用に「Profile」ドロップダウンメニューから「User Define 1~5」のいずれかを選択します。新しい設定を保存するには「Save」を押します。ユーザー定義を全てクリアし初期設定に戻すには「Default」ボタンを押します。



- アプリケーションのホットキー定義に誤りがあると、リモコンのボタンは機能しません。
- ホットキーの定義はソフトウェアのバージョンにより異なります。必要に応じ「Redefine default hotkeys」にチェックを入れて定義を追加してください。再定義するには「Save」ボタンを押します。初期設定のホットキー定義に戻すには「Reset」ボタンを押します。
- セットアップが完了すると、ASUS AI Remote アイコン  がWindows OS のタスクバーに表示されます。アイコンをクリックし、「Settings」を選択するとユーティリティが起動します。

各ボタンと AP Profile

ASUS AI Remote ソフトウェアでは、9 つの一般的なアプリケーション用のホットキーと、そのリモコン上のボタン操作が予め設定されています。また、アプリケーションを 5 つまでユーザー定義することができます。

	Media Player	iTunes	PowerDVD	WinDVD	QuickTime
全画面	v	v	v	v	v
▶	v	v	v/x	v	v
+	v	v	v	v	v
-	v	v	v	v	v
▶▶	v	v	v	v	x
◀◀	v	v	v	v	x
*注			再生のみ、 一時停止は不可		

	Real Player	DivX Player	WinAmp	Power Point	ユーザー定義
全画面	v	v	x	v	
▶	v	v	v/x	全画面	
+	v	x	v	B	
-	v	x	v	ESC	
▶▶	v	x	v	ページダウン	
◀◀	v	x	v	ページアップ	
*注			再生のみ、 一時停止は不可		



初期設定以外のアプリケーションを追加する場合は、5 つまでユーザー定義と追加が可能です。

5.4 Windows® Vista

5.4.1 ASAP (ASUS Accelerated Propeller)

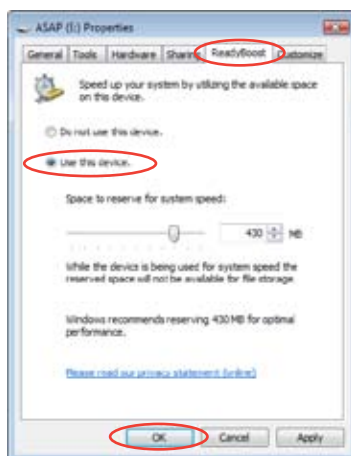
本マザーボードに搭載の ASAP 機能は、Windows® ReadyBoost™ テクノロジをサポートしており、Windows® Vista 環境でのシステムパフォーマンスが向上します。(この機能をサポートしているOSについてはページ 1-6 を参照)



ASAPを利用する前に、サポートCDからASAP ユーティリティをインストールする必要があります。

ASAPを有効にする手順

1. Windows® Vista のデスクトップから「Start」→「Computer」へ。
2. 「USB Removable Storage device (ASAP)」を右クリックし、「Properties」を選択。
3. 「ReadyBoost」タブをクリックしダイアログを表示。
4. 「Use this device」をチェックし、スライダーで ReadyBoost™ 用のキャッシュの値を設定。
5. 「OK」をクリックし、設定を保存。



- ASAPのパーティションは ReadyBoost™ 機能に関連しています。削除しないでください。万一このパーティションを削除してしまった場合は、次のいずれかの方法で再フォーマットします。:

Windows® Vista デスクトップから「Start」→「Computer」を右クリックし、「Manage」を選択します。次に「Disk Management」を選択し、「ASAP Drive」を右クリックします。「Format」→「OK」を選択します。

「Start」→「Control Panel」→「System and Maintenance」→「Administrative Tools」→「Computer Management」→「Disk Management」の順に開き、ASAP ドライブを右クリックし、「Format」→「OK」を選択します。

- Windows® Vista から ASAP デバイスを取り外してしまった場合は、コンピュータを再起動して再度有効にしてください。
- OSを再インストールする場合は、まず ASAP ユーティリティをアンインストールしてください。.

5.5 RAID

本マザーボードは、NVIDIA® SLI Southbridge RAID コントローラを通じ、IDE / Serial ATA ハードディスクドライブで RAID を構築することができます。本マザーボードは以下のRAID 構成をサポートしています。

RAID 0 (データストライピング): HDD に対しパラレル方式でデータを読み/書きします。それぞれのハードディスクの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低 2 台の HDD (同じモデル、同容量) が必要です。

RAID 1 (データミラーリング): 1 台目のドライブから、2 台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが 1 台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低 2 台の新しい HDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

RAID 0+1 : データストライピングとデータミラーリングをパリティ (冗長データ) なしで結合したもの。RAID 0 と RAID 1 構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低 4 台の HDD が必要です。

RAID 5 : 3 台以上の HDD 間のデータとパリティ情報をストライピングします。利点は、HDD のパフォーマンスの向上、フォールト・トレランス、記憶容量の増加です。データのやり取り、相関的なデータベースのアプリケーション、企業内のリソース作成など、ビジネスにおけるシステムの構築に最適です。セットアップには最低 3 台の同じ HDD が必要です。

RAID 1+0: ストライピングした RAID 1 アレイをさらにストライピング。RAID 1 と RAID 0 の機能を兼ね備えています。ストライピングによりパフォーマンスが向上する上、ミラーリングによりフォールトトレランスも提供されます。RAID 1 構成よりも高いパフォーマンスを得られますが、より高いコストがかかります。セットアップには、最低 4 台の HDD が必要です。

JBOD (スパニング): Just a Bunch of Disks の略で、RAID として設定されていない HDD を使います。複数台の HDD を、仮想的に 1 台の HDD のように使用します。複数台の HDD を ワンパーティションで使用することが可能になります。スパニングは複数の HDD を使用することで得られる、フォールトトレランスや他の RAID 機能の利点はありません。



RAID構成がしてあるHDDからシステムをブートする場合は、OSをインストール時にドライバを組み込む必要があります。サポートCDからフロッピーディスクに、RAIDドライバをコピーしてご利用ください。(詳細「5.6 RAIDドライバディスクを作成する」参照)

5.5.1 ハードディスクを取り付ける

本製品は、Ultra DMA /133/100/66、Serial ATA HDDをサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じHDDをご使用ください。

Parallel ATA ハードディスクを取り付ける

RAID用にIDE ハードディスクを取り付ける手順

1. 各ハードディスクのジャンパを、マスター/マスターまたはスレーブ/スレーブに設定します。
2. ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
3. HDD 信号ケーブルを接続します。
4. 4ピン 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

Serial ATA ハードディスクを取り付ける

RAID 用にSATA ハードディスクを取り付ける手順

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA 信号ケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。



サポートCDのRAIDに関する詳細はRAIDコントローラユーザーマニュアルをご覧ください。セクション「5.2.5 マニュアルメニュー」をご参照ください。

5.5.2 NVIDIA® RAID

本製品の、NVIDIA® SLI サウスブリッジチップセットの高性能 IDE RAID コントローラは、4 つの Serial ATA チャンネルで、RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、JBOD をサポートします。

BIOSでRAID を設定する

ハードディスクドライブを取り付けた後、RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップで RAID を設定してください。

手順

1. システムを起動し、POST中に を押して BIOS に入ります。
2. BIOSで、「Advanced」→「Onboard Devices Configuration」と進み、「NVRAID Configuration menu」の項目で「RAID Enabled」の項目を「Enabled」にしてください。以下の項目がユーザー設定可能になります。
3. RAIDとして設定する IDE または、SATA ドライブ を[Enabled]にしてください。(詳細: 5.4.3「オンボードデバイス設定構成」参照)
4. 変更を保存し退出してください。



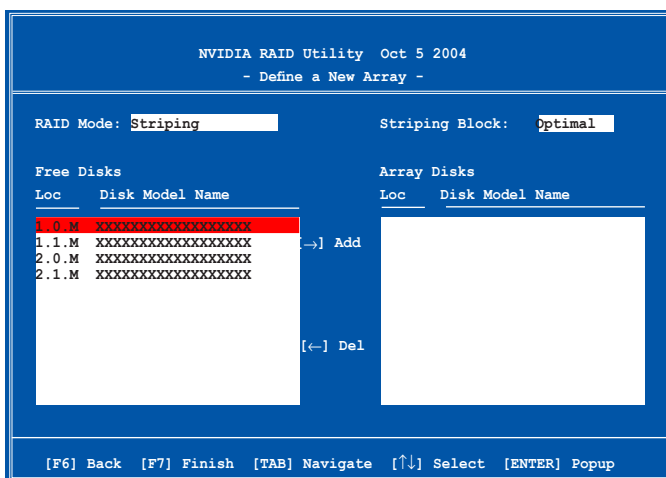
-
- NVIDIA® RAID 設定についての詳細は、サポート CD の「NVIDIA® RAID User's Guide」をご覧ください。
 - Windows 2000 OSをお使いの場合は、Windows 2000 Service Pack 4 以降のサービスパック適用済みのOSをお使いください。
-

NVIDIA® RAID ユーティリティを使う 手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に、<F10>を押してユーティリティのメインメニューを表示させます。



このセクションのRAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

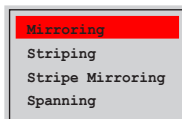


画面下の項目はナビゲーションキーです。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

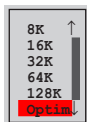
RAID ボリュームを作成する 手順

1. NVIDIA® RAID ユーティリティの Define a New Array メニューで、RAID モードを選択して<Enter>を押すと、下のサブメニューが表示されます。

上下矢印キーを使って RAID モードを選択し、<Enter>を押してください。



2. <TAB>を押して「Striping Block」を選択し<Enter>を押すと、右のサブメニューが表示されます。



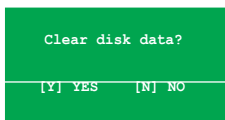
「Striping」か「Stripe Mirroring」を選択した場合は、RAID 0 用に上下キーを使ってストライプサイズを設定して<Enter>を押してください。設定可能な値は、8 KB から 128 KB です。初期設定値は 128 KB です。値はご使用になるドライブに合わせて設定してください。

- 8/16 KB : ローディスク
- 64 KB : 標準的なディスク
- 128 KB : パフォーマンスディスク



ヒント: サーバーには低めの値、オーディオ、ビデオなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値を推奨します。

3. <TAB>で、空きディスク領域を選択してください。左右矢印キーを使ってアレイディスクを割り当ててください。
4. <F7> で、RAID を作成すると、次のメッセージボックスが表示されます。



5. 選択したディスクをクリアする場合は<Y>、ディスクをクリアせずに続行する場合は<N>を押してください。次の画面が表示されます。



RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。

NVIDIA RAID Utility Oct 5 2004					
- Array List -					
Boot	Id	Status	Vendor	Array	Model Name
No	4	Healthy	NVIDIA	MIRROR	XXX.XXG
[Ctrl+X]Exit [↑↓]Select [B]Set Boot [N]New Array [ENTER]Detail					

画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

6. <Ctrl+X>で設定を保存し退出します。

RAID アレイの再構築

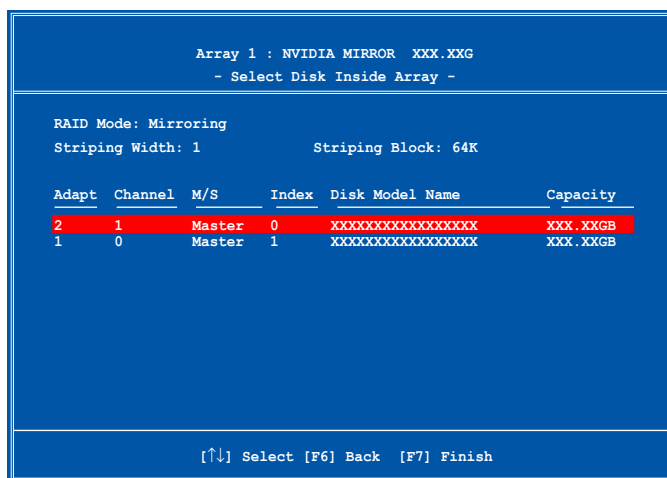
手順

1. 上下矢印キーを使って、Array List の「RAID array」を選択し、<Enter>を押します。
RAID アレイの詳細が表示されます。

Array 1 : NVIDIA MIRROR XXX.XXG					
- Array Detail -					
RAID Mode: Mirroring					
Striping Width: 1			Striping Block: 64K		
Adapt	Channel	M/S	Index	Disk Model Name	Capacity
2	1	Master	0	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXX.XXGB
1	0	Master	1	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXX.XXGB
[R] Rebuild [D] Delete [C] Clear Disk [ENTER] Return					

画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

2. <R>を押して RAID アレイを再構築します。次の画面が表示されます。



3. 上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<F7>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。

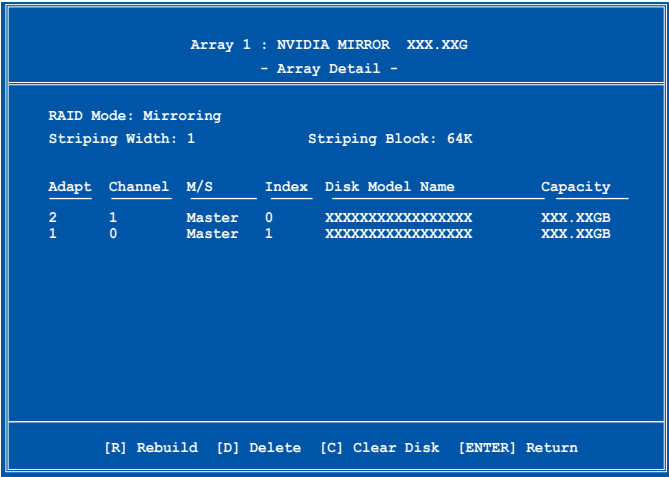


4. 再構築を始める場合は<Enter>、キャンセルする場合は<Esc>を押してください。
5. 再構築が完了すると、アレイリストメニューが表示されます。

RAID アレイを削除する

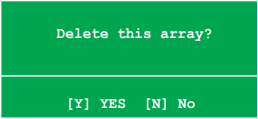
手順

1. アレイリストメニューから上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<Enter>を押すと、RAID アレイの詳細が表示されます。



画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

2. RAID アレイを削除するために <D> を押すと、次の確認メッセージが表示されます。



3. 削除する場合は<Y>、キャンセルする場合は<N>を押してください。



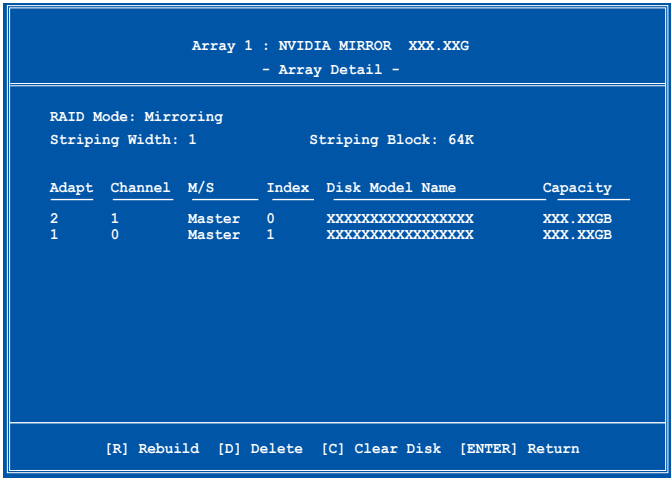
RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。

4. <Y>を押すと、新しくRAIDを作成するための画面が表示されます。

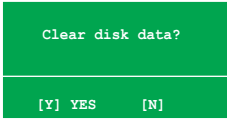
データをクリアする

手順

- 1. アレイリストメニューで、上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<Enter>を押すと、RAID アレイの詳細が表示されます。



- 画面の下にナビゲーションキーが表示されます。
- 2. <C>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。



- 5. クリアする場合は<Y>、キャンセルする場合は<N>を押してください。



RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。

5.6 RAIDドライバディスクを作成する

Windows® 2000/XP/Vista OS をRAID に組み込まれた HDD にインストールするとき、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。

RAID ドライバ ディスクの作成手順

1. サポートCDを光学ドライブにセットします。
2. 「Make Disk」タブを選択します。
3. 「Make Disk」メニューから、作成したい RAID ドライバディスク、またはサポートCDのコンテンツズを閲覧してドライバディスクユーティリティを探してください。



セクション「5.2.4 Make Disk menu」をご参照ください。

4. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
5. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。
6. フロッピーディスクをライトプロテクトしてウィルスの攻撃から守ります。

RAID ドライバのインストール

1. OS のインストール中に、「Press the F6 key to install third-party SCSI or RAID driver」という指示が表示されます。
2. <F6>を押し、RAID ドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。



チップセットの制限により、NVIDIAチップセットがサポートしているSerial ATAポートは、DOSモードでは Serial 光学ディスクドライブをサポートしません。

SLI 対応 PCI Express ビデオカードの取り付け方



Chapter

6.1	概要	6-1
6.2	デュアルビデオカードをセットアップする	6-2

6.1 概要

本製品は、PCI Express™ x16 ビデオカードの2枚挿しが可能な、NVIDIA® SLI™ (Scalable Link Interface)-Intel® Edition 技術をサポートしています。

必要条件

- NVIDIA® 公認 SLI 対応ビデオカード2枚 (全く同じもの)。
- ビデオカードドライバがNVIDIA® SLI™ 技術対応であること。最新のドライバは NVIDIA Webサイト (www.nvidia.com) からダウンロードすることができます。
- 電源装置 (PSU) が最低電源条件を満たしていること。(2-28 ページの「9. ATX 電源コネクタ」参照)



-
- NVIDIA SLI 技術は Windows® XP™ 32bit/64bit OS のみのサポートです。Windows® Vista™ OSでの NVIDIA® SLI™ 技術に関してはNVIDIA web サイト (www.nvidia.com) をご覧ください。
 - NVIDIA zone webサイト (<http://www.nzone.com>) で最新の公認ビデオカードと3D アプリケーションリストを確認してください。
-

6.2 デュアルビデオカードをセットアップする

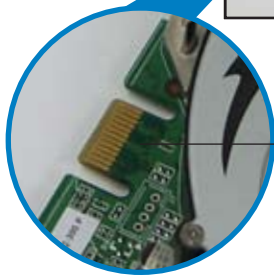
6.2.1 SLI-Ready ビデオカードを取り付ける



取り付けるNVIDIA®公認 SLI 対応ビデオカードは、同一のものが2枚必要です。異なる種類のビデオカードでは、正確に機能しません。

手順

1. ビデオカードを2枚用意します。SLI コネクタ用にゴールドフィンガーのついたものを用意してください。



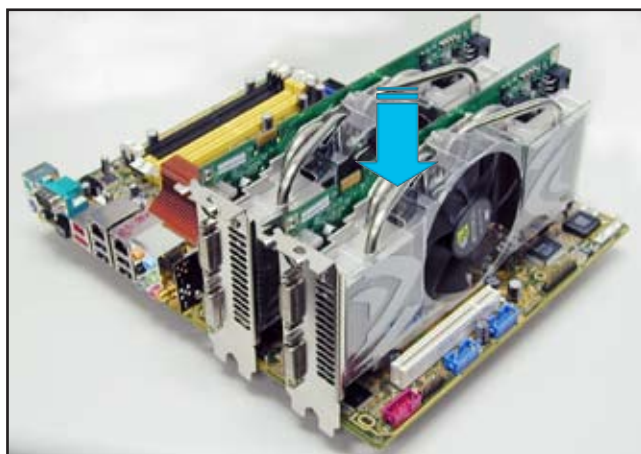
ゴールドフィンガー

2. PCI Express x16 スロットのブラケットカバーを取り外します。

3. ビデオカード1枚をブルーかブラックのどちらか一方のスロットにしっかりと挿し込みます。

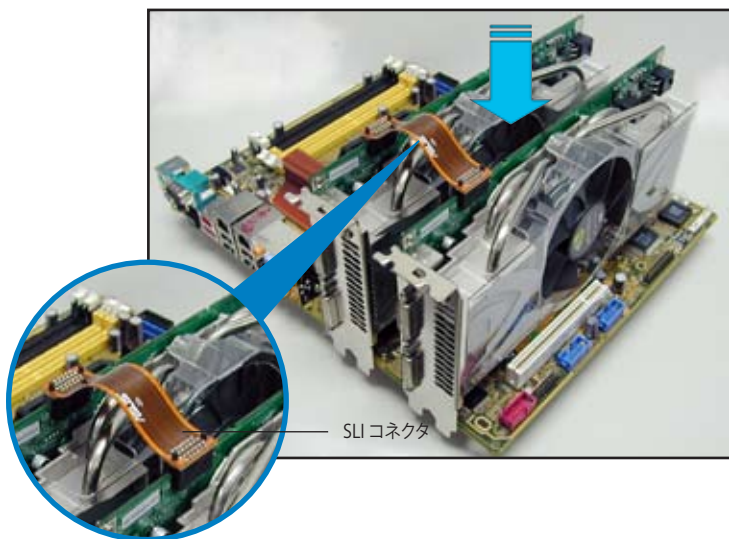


4. もう一枚のビデオカードをもう一方のスロットにしっかりと挿し込みます。



必要の場合は、PCI Expressビデオカードに補助電源装置を接続してください。.

5. SLI コネクタをそれぞれのビデオカードのゴールドフィンガーに合わせてしっかりと挿入してください。



6. +12vの20ピン ATX PSU を使用して2枚のビデオカードを取り付ける場合は、補助電源装置の接続を推奨します。デュアルビデオカードを使用する際の必要電源に関する詳細は PSU の説明書をお読みください。
7. VGA ケーブルまたは DVI-I ケーブルをビデオカードに接続してください。



ケースファンの追加など、放熱効果のある環境の構築をお勧めします。

6.2.2 デバイスドライバをインストールする

ビデオカードに付属のマニュアルを参考にして、デバイスドライバをインストールしてください。



PCI Express ビデオカードドライバが NVIDIA SLI 技術対応であることを確認してください。最新のドライバは NVIDIA Web サイト (www.jp.nvidia.com) からダウンロードすることができます。

6.2.3 マルチGPU 機能 (Windows® 環境)

ビデオカードとデバイスドライバをインストール後、NVIDIA nView properties で、マルチGPU機能を有効にします。

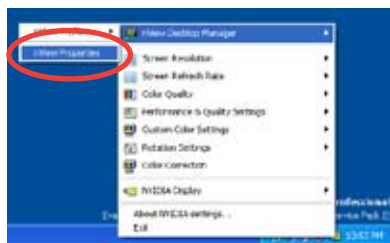
マルチGPUを有効にする

1. WindowsタスクバーのNVIDIA 設定アイコンをクリックします。



NVIDIA 設定アイコン

2. ポップアップメニューから、「nView Desktop Manager」を選択し、「nView Properties」をクリックします。



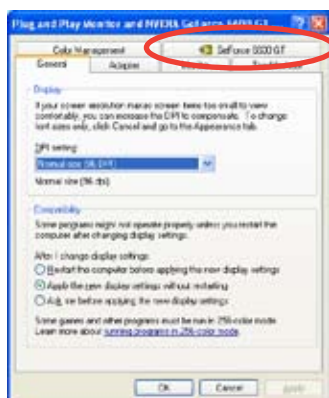
3. 「nView Desktop Manager」ウィンドウの、「Desktop Management」タブをクリックします。
4. 「Properties」をクリックして、「Display Properties」ダイアログボックスを表示させます。



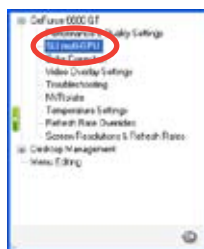
5. 「Display Properties」ダイアログボックスで、「Settings」タブを選択し、「Advanced」をクリックします。



6. 「NVIDIA GeForce」タブを選択します。



7. スライダーをクリックして、下の画面を表示させ、「SLI multi-GPU」をクリックします。



スライダー



8. 「Enable SLI multi-GPU」のチェックボックスにチェックを入れます。
9. 「OK」をクリックして設定終了です。